



大学院コンサートシリーズ
洗足学園音楽大学 大学院音楽研究科
2020年度

研究演奏会



2021年1月

18日(月)、19日(火)、20日(水)、
21日(木)、22日(金)、26日(火)

洗足学園 前田ホール

2021

ごあいさつ

本日は洗足学園音楽大学大学院「2020年度 研究演奏会」にご来場くださいます。誠にありがとうございます。

この「研究演奏会」は、大学院の1年次における研究の集大成となる最終試験を、公開で行う演奏会でございます。

大学院生はそれぞれの専門領域を幅広い視野から研究、自己の音楽を表現すべく日々練磨してまいりました。今後2年次に進み、本学大学院での更なる研鑽の日々により、音楽界における次代を担う人材を目指し、終わりなき音楽の道を歩んでくれるものと確信しております。

皆様にはこの演奏会の意義をご理解頂きまして、御高評を賜りたく存じます。

洗足学園音楽大学・大学院
大学院音楽研究科長
教授 小嶋 貴文

△ 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発声明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

△ 遠隔審査につきまして

本年度の研究・修了演奏会は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて希望者は遠隔審査となります。本冊子には全受験者のプログラムが記載されておりますが、当日ホールでの演奏が行われないプログラムがある場合がございます。予めご了承下さい。

15 FRI
修了演奏会*

弦楽器 (院2)

- ◎ 13:00 開演 [12:30 開場]
押見 純代* 藤岡 瑞季* 北川 乃梨子*
- ◎ 15:00 開演
木村 蒼* 吉田 智海* 友原 安佐子*
- ◎ 16:30 開演
有福 佑依* 林 桃子* 山口 亜純*

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

18 MON
研究演奏会
修了演奏会*

クラシックギター (院2)

- ◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
大賀 淳也* YAN SHI*
HEI SHENGYU*

和楽器 (院1・院2)

- ◎ 12:30 開演 [12:00 開場]
FENG RUI (院1) WU SHANGMEIYUE (院2)*

声楽 (院2)

- ◎ 14:00 開演
板倉 春菜* 壽美 玲子* 原 芽衣*
- ◎ 15:20 開演
池田 実来* ZHANG HAN*

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

19 TUE
研究演奏会
修了演奏会*

金管楽器 (院1)

- ◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
望月 稜香

木管楽器 (院2)

- ◎ 10:40 開演
持田 夏希* 尾崎 ゆか*

木管楽器 (院2)

- ◎ 11:55 開演
YU QINZI* 伊藤 仁美*

木管楽器 (院2)

- ◎ 14:00 開演 [13:30 開場]
前原 希美* LI HUAYU*
- ◎ 15:20 開演
三輪 桃子* 永田 博雅*

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

20 WED
研究演奏会
修了演奏会*

打楽器 (院2)

- ◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
角田 和渉* LIU JIN*
HSIEH SHENGHUNG*

打楽器 (院2)

- ◎ 12:05 開演
島津 翠* 石川 まみ*

弦楽器 (院1)

- ◎ 14:30 開演 [14:00 開場]
有馬 憧 大森 陸 リチャード
菅野 稚子
- ◎ 15:55 開演
高橋 沙織 ZHANG WEICHEN
- ◎ 17:00 開演
成田 叶 濱 萌香

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

★は遠隔受験者のため動画審査となり、ホール内では演奏いたしません

21 THU

研究演奏会
修了演奏会*

電子オルガン (院1)

◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
YAN YANGBING WANG QINGZI
WANG WENHAO ZHOU SHAOHUI
◎ 11:25 開演
XU HUAMIN JIN TINGYAN
DU DANYANG

電子オルガン (院1)

◎ 13:40 開演 [13:10 開場]
DENG RUOHENG LI MULAN
SUN YUPENG*

電子オルガン (院2)

◎ 14:45 開演
CHEN YUJIN* XU JINGWEN[※]
◎ 15:50 開演
ZHANG LEIQIAN[※] WEN JINGXI[※]
WANG XICHEN*[※]

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

22 FRI

研究演奏会
修了演奏会*

ピアノ (院1)

◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
河原 萌恵 JIANG SUTING
瀬筒 秀樹

ピアノ (院1)

◎ 12:15 開演 [11:45 開場]
高城 美希 田中 広輝 林 菜月

二胡 (院1・院2)

◎ 14:15 開演 [13:45 開場]
CHEN ZIZHUO (院1) ZHU BAIQING (院2)*

作曲 (院2)

◎ 15:15 開演
吉田 健人* 原 雅史*

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

23 SAT

修了演奏会*

ピアノ (院2)

◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
隈元 沙綾* 加藤 瑞穂* 相田 実久*

ピアノ (院2)

◎ 12:45 開演 [12:15 開場]
森合 爽子* 有賀 瞳* 門岡 明弥*
◎ 14:25 開演
橋本 和磨* 丸橋 みなみ* 石津 若葉*
◎ 16:20 開演
中世古 達也* 竹崎 聡子* 服部 直士*

※は別冊の「修了演奏会」プログラムをご覧ください。

26 TUE

研究演奏会

木管楽器 (院1)

◎ 10:00 開演 [9:30 開場]
五十嵐 蓮 澁谷 隆宏 XIAO QIANYI
◎ 11:20 開演
CHENG YI-CHIEH 府川 悠理

木管楽器 (院1)

◎ 12:20 開演
山崎 春奈 吉村 由望

声楽 (院1)

◎ 13:30 開演
石川 敦也 後藤 ゆずか
ZHANG YIJIAO
◎ 14:40 開演
鈴木 彩生 CHEN YINGJIE 長島 彩
◎ 15:50 開演
村田 涼 YOU PAN
脇屋敷 美里 渡辺 華子

*は通称受験者のため動画審査となり、ホール内では演奏いたしません

1

18 MON 和楽器

和楽器
12:30

1. FENG RUI (横笛)

打楽器 (締め太鼓等) 富田 慎平
十七絃 西 琴美

江 先渭 (b.1924) / 笛子の独奏曲《姑蘇行》

篠笛による歌舞伎音楽の旋律より

《田舎笛》
《空笛》
《聖天》

能管による能、歌舞伎の旋律より

《名乗笛》
《楽》
《中の舞》

三木 稔 (1930-2011) / 尺八と十七絃のための《雅びのうた》

【解説】

日本の横笛の演奏技術の習得と向上、そして日本と中国の横笛の比較研究をテーマとして研鑽を積んでいることから、日本と中国の笛の中から3種類を選んでプログラムを策定した。

まず、江先渭の《姑蘇行》を中国の笛で演奏する。この曲の主題は昆曲音調から選ばれていて濃厚な中国江南の風格を持つ。楽曲は優美で古城蘇州の風光と人々が遊覧する時の愉快的な気持ちを表現している。

日本では雅楽が確立する前から笛は演奏されてきたが、漢字の入る前の文化は記録として残されておらず、現在に伝わる伝統音楽の中に当時の音が継承されているものを参考にするのみである。素朴な旋律が日本の笛の特徴であることから、歌舞伎の下座音楽で演じられる3つの篠笛のパターンを演奏する。すなわち篠笛による、歌舞伎音楽の旋律《田舎笛・いなかぶえ》《聖天・しょうでん》《空笛・そらぶえ》である。

続いて日本の芸能文化に大きな影響を与えた武士の作り上げた「能楽」から横笛能管を取り上げる。侍の作り上げた音楽らしく、飾りを排し、淡々と演奏する能楽由来の3つの楽節である、能、歌舞伎の旋律《名乗笛》《楽》《中の舞》を能管で演奏する。《名乗笛》は脇方の登場にあしられる能管の独奏曲。これは「盤渉楽」とも呼ばれる雅楽から影響を受けた曲であり、優雅な曲調を持つ。《中の舞》は、数ある能楽の「舞い」の楽節のうち、もっとも多く奏される。今回は打楽器を伴って演奏する。

三木稔は現代邦楽の代表的な作曲家である。伝統と現代を融合させた彼は、日本の楽器に限らず、中国や韓国の民族楽器も手がけ、数々の作品を生み出してきた。今回は尺八と十七絃のための《雅びのうた》を篠笛で演奏する。



Profile

中国河北省唐山市出身、唐山市第十中学、湖南女子大学卒業。香港国際笛音楽節銀賞を受賞。中国の笛子を劉海成、高継才、劉江笛、王彦傑の各氏に師事。日本の横笛を西川浩平に師事。東アジアの横笛の比較研究も含めて研鑽を積んでいる。

金管楽器 1. 望月 稜香 (トロンボーン)
10:00

- ▼ E.ビゴー / トロンボーンとピアノのための即興曲
Eugène Bigot (1888-1965) // Impromptu pour Trombone et Piano
- ▼ J.カステレード / トロンボーンとピアノのためのソナチネ
Jacques Castéride (1926-2014) // Sonatine pour Trombone et Piano
- 第1楽章 Allegro vivo
- 第2楽章 Andante sostenuto
- 第3楽章 Allegro

【解説】

E.ビゴーは1888年フランスのレンヌ生まれ。1905年からパリ国立音楽院でクサヴィエ・ルルーに和声法、アンドレ・ジェダルジュに対位法、ポール・ヴィダルに作曲法を師事。ヴィダルの門下には、《トロンボーン協奏曲》を作曲したアンリ・トマジもいた。1912年に音楽院を卒業し、1923年には、トロンボーンソロ作品である《交響的小品》を作曲したフィリップ・ゴーベールの指揮する、パリ音楽院管弦楽団の副指揮者となり、その後も様々なオーケストラの指揮者を務める。第2次世界大戦後には、パリ音楽院教授として辣腕をふるった。1957年にその座を退いてからは、ブザンソン国際指揮者コンクールの審査員を務め、小澤征爾らにも助言指導を行った。《トロンボーンとピアノのための即興曲》は1924年の作品で、友人でパリ国立音楽院の教授を務めたトロンボーン奏者アンドレ・ラフォセに献呈された。

J.カステレードは1926年パリ生まれ。パリ国立音楽院に入学するまではピアノを習うが、レパートリーはほぼリストやショパンなどのロマン派の作品であり、モーツァルトやベートーヴェンのオーケストラ曲はピアノ・デュオで学んだのみであった。しかし、音楽院で様々な作曲技法を習得し、最終的にはメシアン音楽分析クラスで学ぶなど現代的な感覚も取り入れるようになった。そのためか、彼の作品には無調からジャズ、ポップス、ロックなど様々な音楽の影響が強く出ており、1958年に出版された《トロンボーンとピアノのためのソナチネ》にも様々な要素が散りばめられている。軽快かつ滑稽なリズムの第1、3楽章とは対照的な、静かで美しい2楽章も大変魅力的である。



Profile

長野県松本市出身。高松第一高等学校音楽科を経て、明星大学教育学部音楽コースを成績優秀者として卒業。第31回香川ジュニア音楽コンクール金賞受賞、第70回TIAAクラシック音楽コンサート本選出場、同コンサート本選にて審査員賞受賞。第6回日本トロンボーンコンペティション独奏部門一般の部第2位。令和2年度大学院コンチェルトの夕べにて、ソリストとしてH.トマジ作曲《トロンボーン協奏曲》を、洗足学園音楽大学大学院室内管弦楽団と共演。これまでにトロンボーンを、眞砂美輪、村山修一、吉川武典、倉田寛、府川雪野の各氏に師事。Fabrice Millischer氏のプライベートレッスンを受講。

弦楽器 1. 有馬 憧 (チェロ)
14:30

- ▼ E.ラロ / チェロ協奏曲 二短調より
Édouard Lalo (1823-92) // Concerto pour violoncelle en Ré mineur
- ▼ 第1楽章 Lento-Allegro maestoso
- ▼ 第3楽章 Andante-Allegro Vivace

【解説】

エドゥアール・ラロはフランスの作曲家である。パリの音楽院でヴァイオリンと作曲を学び、初めは室内楽奏者として活躍した。作品はあまり認められず不毛な時期が続いたため、一時は作曲活動をほとんど放棄したが、1871年の国民音楽協会設立に参画し、サラサーテらによる支援が、オーケストラ音楽の作曲家として転進する機会となった。その後、73年には《ヴァイオリン協奏曲 第1番 へ長調》、翌年には《ヴァイオリン協奏曲 第2番 二短調「スペイン交響曲」》を作曲し、サラサーテが献呈・初演して人気を博すなど、相次いで傑作を世に送り出した。

そんななか1877年に作曲されたのが《チェロ協奏曲 二短調》である。この曲は、祖先の母国スペインへの強い想いからくる作曲家ならではの熱いメッセージと実に豊かな色彩感のある楽曲である。第1楽章はレントで始まり、オーケストラがスペイン風のフレーズを劇的に奏した後、独奏チェロが自由なレチタティーヴォを弾き出す。アレグロ・マエストーソに入ると、情熱的な第1主題が奏でられ、やがて抒情的な第2主題が登場する。最後は独奏チェロの技巧的な音形を中心に盛り上がり、華やかに第1楽章を終える。第3楽章のアンダンテは、低弦の長くのばす音の上に、のちの第2主題となるハバネラの旋律が強烈な雰囲気を出しながら演奏される。アレグロ・ヴィヴァーチェでは、ロンドの第1主題が勢いよく奏されるとすぐに第2主題が始まる。この主題は、サラサーテがヴァイオリン曲《ハバネラ》に使った主題と同じものである。オーケストラに導かれてチェロが中間部を演奏すると、やがて結尾に向かって高まり始め、壮大に曲が閉じられる。



Profile

福島県出身。15歳よりチェロを始める。福島県立橋高等学校、国立大学法人福島大学人間発達文化学類卒業。これまでに、チェロを金谷昌治、金木博幸の各氏に、室内楽を須田祥子氏に師事。

2. 大森 陸 リチャード (ヴィオラ)
Pf. 田中 麻紀

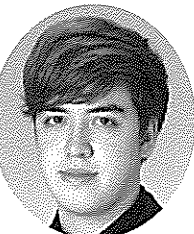
- J.ブラームス / ヴィオラ・ソナタ 第2番 変ホ長調 作品120-2
Johannes Brahms (1833-97) // Sonate für Viola und Klavier Nr.2 Es-dur op.120-2
- 第1楽章 Allegro amabile
- 第2楽章 Allegro appassionato
- 第3楽章 Andante con moto

【解説】

数々の大曲、名曲を生み出した偉大なる作曲家ヨハネス・ブラームスの最晩年に作曲された作品こそ、2曲の《ヴィオラ・ソナタ》作品120である。この作品は元々、1894年にクラリネット奏者であるリヒャルト・ミュールフェルトから依頼されて《クラリネット・ソナタ》として作曲された。その後、ブラームスによりヴィオラ用に編曲されたが、クラリネット版とヴィオラ版の楽譜は1895年6月に同時に出版された。

このヴィオラ版を編曲するにあたってブラームスは、クラリネットでは奏法上、演奏不可能な三重音による装飾音符や、重音箇所を追加している。100年以上経った現在でも、この曲は世界中のヴィオラ奏者にとって重要なレパートリーであり続け、多くのヴィオラ奏者たちが挑戦する楽曲となっている。本日は、第2番を演奏する。

第1楽章はアレグロ・アマービレ。ソナタ形式の愛らしく、素直な第1主題で始まる。ピアノとヴィオラの掛け合いの後、第2主題が現れる。再現部は小結尾の旋律ののちに第1主題を改めて示し、その後、結尾となり曲が終わる。第2楽章はアレグロ・アパッショナート。躍動感溢れるヴィオラの主題で始まる。ヴィオラとピアノの対比的な旋律が印象的。転調を重ねて最後に変ホ長調に到達して楽章を結ぶ。第3楽章はアンダンテ・コン・モート。第5変奏までであるこの楽章では、ブラームスが自身の人生を振り返るように緩急の豊かな変奏が連続する。最後の変奏曲は暗くも活動的であり、ブラームスの人生の締めくくりを感じさせるかのような旋律をヴィオラが歌い上げ、リズムカルで力強いピアノの分散和音で曲は華やかに終わる。



Profile

6歳よりヴァイオリンを始める。東邦音楽大学附属東邦中学校、高等学校を経て同音楽大学卒業。ヴァイオリンを谷裕美、白井英治、ルネ・スタールの各氏に師事。高等学校在学中よりヴィオラを始める。ヴィオラを大久保淑人、佐々木亮、G.マルシュナー、W.シュトレーレの各氏に、室内楽を大久保淑人、須田祥子の各氏に師事。2019年に東邦音楽大学管弦楽団とホフマイスター《ヴィオラ協奏曲》を共演。第27回日本クラシック音楽コンクール全国大会入賞。

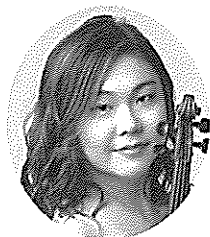
3. 菅野 稚子 (ヴァイオリン)

W.A.モーツァルト / ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K.218
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // Violin Concerto No.4 in D major K.218
第1楽章 Allegro
第2楽章 Andante cantabile
第3楽章 Rondo Andante grazioso-Allegro ma non troppo

【解説】

W.A.モーツァルトは、1773年から1775年の若い頃に5曲あるヴァイオリン協奏曲を書いている。《第4番》は、第1楽章の冒頭主題の勇壮な軍隊のリズムから「軍隊的」とも名づけられることがある。オーケストラは前作《ヴァイオリン協奏曲 第3番》でみられたようなソロヴァイオリンとの対話、かけ合いなどはほとんど行わず、より単純な性格をもち、忠実な伴奏の役をつとめたり、重複して旋律を強めたりしている。

第1楽章では、軍隊的なリズムをもった力強い主題がオーケストラにより演奏され、ソロヴァイオリンによって繰り返し演奏されたあとは姿を現すことはない。ソロヴァイオリンの華やかな旋律に対して、オーケストラはわずかにかけ合いがあるがそれほど派手ではない。第2楽章では、冒頭、オーケストラによっておだやかな情調の主題が演奏され、その後、ソロヴァイオリンが主題を繰り返す。ヴァイオリンのスタッカート音型で属調として伴奏されるソロヴァイオリンの軽やかな副主題が印象的である。第3楽章では、まずソロヴァイオリンがロンドの主題を演奏した後、スタッカートと装飾音をともなった軽快な主題を演奏し、変化や転調を加えられながら繰り返される。フランス風のミュゼットのリズムによる変奏も登場する。



Profile

千葉県出身。11歳よりヴァイオリンを始める。洗足学園音楽大学弦楽器コースヴァイオリン専攻卒業。フェデリコ・アゴ스티ーニ氏の来校時に特別レッスンを受講。これまでにヴァイオリンを磯 恒男、水野 佐知香の各氏に、ヴァイオリンを安藤 裕子氏に、室内楽を物集女 純子、須田 祥子、安藤 裕子の各氏に師事。

弦楽器 15:55 4. 高橋 沙織 (ヴァイオリン)

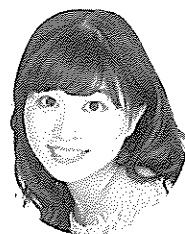
Pf. 田中 麻紀

E.ショーソン / 詩曲 作品25
Ernest Chausson (1855-99) // Poème op.25
M.ラヴェル / ツィガーヌ
Maurice Ravel (1875-1937) // Tzigane

【解説】

《詩曲》は、1896年、E.ショーソンによって作曲された。ショーソンは、同じくフランスの作曲家であったC.サン＝サーンス(1835-1921)と同時代に、様々なジャンルの作品を生んだ。《詩曲》はショーソンの作品の中でも特に愛好される作品の一つで、既に大家の域にあった彼の長所を併せ持った傑作である。作品は、叙情的で情熱的な彼の作風がよく表れているが、1864年に父を亡くした悲観的な内面も感じさせる。また、この作品は、ベルギーのヴァイオリンの名手E.イザイ(1858-1931)に献呈され、初演もイザイによってなされている。

《ツィガーヌ》は、1924年、M.ラヴェルによって作曲された。ラヴェルもフランスの作曲家で、その特徴ある様式や洗練された和声で、同世代の作曲家の中で卓越した地位を保ってきた。《ツィガーヌ》とはフランス語でジプシーという意味で、ハンガリーのジプシー音楽を素材とした作品である。曲を書いた動機は、J.ヨアヒム(1831-1907)の孫娘で、当時名ヴァイオリニストとして活躍していたJ.ダラーニ(1895-1966)の演奏に感銘を受けたことにある。曲は、独奏ヴァイオリンによる長いカデンツァで始まる。前半はG線上だけで奏され、後半は重音やハーモニックス、ピッツィカートなどの技巧を凝らした変奏部分になっている。独奏部分が終わると、ハーブの波のようなアルペジオが始まり、やがてヴァイオリンが主題を生き生きと演奏する。この主題はその後様々なパターンの変奏で現れ、最後は転調を重ねながら狂ったように頂点に達し、曲を閉じる。



Profile

宮城県出身。洗足学園音楽大学弦楽器コースヴァイオリン専攻卒業。これまでにヴァイオリンを荒井 正昭、川田 知子、安永 徹、水野 佐知香、室内楽を安藤 裕子、川田 知子、須田 祥子、安永 徹、市野 あゆみの各氏に師事。2014年第24回日本クラシック音楽コンクール全国大会高校の部第5位。2014、2015年パチカンより日本へ折りのレクイエムコンサートにソリストとして参加し、ロッシーニ歌劇場管弦楽団と共演。2018年フィリアホール室内楽アカデミア受講生選抜オーディションに合格。2019年第14回パッハホール音楽コンクール一般の部銀賞受賞。

5. ZHANG WEICHEN (ヴィオラ)

Pf. 吉田 明香音

J.N.フンメル / ヴィオラ・ソナタ 変ホ長調 作品5-3
Johann Nepomuk Hummel (1778-1837) // Sonate Es-dur für Viola und Klavier op.5-3
第1楽章 Allegro moderato
第2楽章 Adagio cantabile
第3楽章 Rondo con moto

【解説】

ヨハン・ネポムク・フンメルは、古典期後期からロマン初期にかけて活躍したオーストリアの作曲家・ピアニストである。生前は、ヨーロッパ最高の作曲家、ピアノ奏者の一人に数えられ、ベートーヴェンと並び称される巨匠の一人として音楽界に君臨した。

1798年に作曲された《ヴィオラ・ソナタ 変ホ長調》作品5-3は、軽快で美しいメロディーのため、練習にそれほど困難はないと思っていたが、勉強してみると、リズムの把握や音楽の解釈などに難しさを感じた。また、ピアノと一緒に演奏していると、二つの楽器の間に流れるような滑らかなメロディーが感じられ、同時に強い音楽的共感が感じられる。

第1楽章 アレグロ・モデラートは、4分の4拍子、変ホ長調。典型的なソナタ形式である。提示部、展開部、再現部が基本となっている。本楽章で使われている作曲手法は、リズムカノン、4分音符リズム、ゼクエント、装飾音、転調などである。第2楽章 アダージョ・カンタービレは、4分の4拍子、変ロ長調による単純な三部形式(ABA)で、歌のような緩徐楽章である。第3楽章 ロンド・コン・モートは、2分の2拍子、変ホ長調のロンド形式(ABACA)。ヴィオラの美しいメロディと、華麗なピアノパートが絡みあった楽章である。

フンメルが今の自分と同じ年頃に創ったこの作品を、生き生きと演奏したいと思う。



Profile

中国北京市生まれ。2018年、中国伝媒大学音楽学部電子音楽作曲科卒業。5歳からヴァイオリンを学び、10歳から北京少年金帆交響楽団に第一ヴァイオリン奏者として参加。2008年ウィーンにおいて開催された国際青年交響楽団コンクールにおいて金賞を受賞した。高校時代にヴィオラ演奏を学び、大学時代には、ヴィオラ奏者として中国伝媒大学交響楽団のリハーサルや公演活動に参加した。

弦楽器 17:00 6. 成田 叶 (ヴァイオリン)

Pf. 田中 麻紀

J.シベリウス / ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
Jean Sibelius (1865-1957) // Violin Concerto in D minor op.47
第1楽章 Allegro moderato
第2楽章 Adagio di molto
第3楽章 Allegro

【解説】

シベリウスの《ヴァイオリン協奏曲 二短調》は1903年に作曲された。その後1905年に改訂され、現在はこの1905年版が主流となっている。彼がヴァイオリンを弾けたということもあり、楽器の特性が活かされた曲となっている。交響曲を多く作曲していた時期だったため、交響的な要素も多く響きも重厚で、独奏者とオーケストラが対等に渡り合っている作品である。

第1楽章はアレグロ・モデラート、自由なソナタ形式、2分の2拍子。北欧を思わせる第1主題を独奏ヴァイオリンが奏でるところから始まる。通常、最後に置かれるカデンツァが中央に置かれているという独特な構成がなされているのが特徴である。第2楽章はアダージョ・ディ・モルト、三部形式、4分の4拍子。木管楽器が導入部の主題を奏でた後、続いて独奏ヴァイオリンが美しい旋律を歌う。この主題は発展していき、最後はブラガール終止で終わる。第3楽章はアレグロ、自由かつ不完全なロンド形式、4分の3拍子。弦楽器とティンパニの保持するリズムに乗って独奏ヴァイオリンがロンド主題を奏でるところから始まる。分散和音、重音奏法、スピッカートなどのヴィルトゥオーゾ要素が含まれる技巧的な楽章である。



Profile

東京都出身。6歳よりヴァイオリンを始める。上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コース卒業。第34回かながわ音楽コンクール入選。第7回Kアンリミテッド音楽コンクール奨励賞受賞。2019年、東京国際芸術協会より助成を受け、チューリッヒ芸術大学教授によるマスタークラスへ参加。Andreas Janke、Bartek Niziołの各氏に師事。またソリストとして、清水 麗輝指揮、上野学園管弦楽団と共演。これまでにヴァイオリンを岡口 敦子、本郷 幸子、矢部 達哉、緒方 恵、水野 佐知香の各氏に師事。

7. 濱 萌香 (ヴァイオリン)

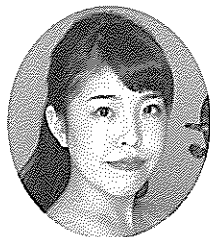
Pf. 一宮 明代

M.ブルッフ / スコットランド幻想曲 作品46より
Max Bruch (1838-1920) // Scottish Fantasy op.46
序奏 Grave
第1楽章 Adagio cantabile
第2楽章 Allegro
第3楽章 Andante sostenuto

【解説】

M.ブルッフは、ソプラノ歌手であった母から音楽の手ほどきを受けた。彼の作品の主流は合唱曲であるが、独奏楽器と管弦楽のための作品も重要な位置を占めている。《スコットランド幻想曲》は、スコットランド民謡の旋律を用いて書かれた作品である。初演は1880年、この曲を献呈されたヴァイオリニスト、サラサーテの独奏によってハンブルクにおいて行われた。序奏と4つの楽章からなり、全楽章にスコットランド民謡が取り入れられている。

序奏では、低音の神妙な響きの上にヴァイオリンが悲しい物語を始める。そして、オーケストラと対話しながら激しく盛り上がり、序奏の最後は《ヴァイオリン協奏曲 第2番》の第2楽章の冒頭と全く同じ手法のレチタティーヴォで終結する。序奏から切れ間なく始まる第1楽章では、コラル風の静かな音楽がオーケストラによって奏され、ハーブも際立つ。その伴奏の上に主題となるスコットランド民謡の旋律が、ヴァイオリンによって奏でられ、濃厚に変奏されながら自由に展開されていく。ブルッフ自身がスケルツォ風の舞曲と述べた第2楽章では、オーケストラがフォルテで導入部を奏で、ト長調に転じて、元気のよい主題がヴァイオリンに現れる。伴奏にはスコットランドのパグパイプを模した5度のペダルポイントが使われている。ヴァイオリンによる自由で華麗な技巧部分が多彩に現れ、終盤ではアダージョになり、次の楽章へと静かに流れ込んでいく。第3楽章では、ブルッフの叙情性がよく現れている。ヴァイオリンの即興的な変奏の後、口短調の情熱的な前半とは対照的な中間部があり、その後再びゆっくりとしたテンポに戻り、静かにこの楽章が終わる。



Profile

長野県出身。伊那弥生ヶ丘高等学校、洗足学園音楽大学弦楽器コースヴァイオリン専攻卒業。3歳よりヴァイオリンを始める。これまでにヴァイオリンを岡本 千枝子、矢口 十詩子、北原 よし子、千葉 純子、ヴィオラを古川原 裕仁、室内楽を川田 知子、須田 祥子の各氏に師事。

電子オルガン
10:00

1. YAN YANGBING (電子オルガン)

久石 譲 (b.1950) / Asian X.T.C
Coba (b.1959) / Casa S.Francesco
真島 俊夫 (1949-2016) / 《三つのジャポニスム》より
第1曲 鶴が舞う

【解説】

《Asian X.T.C》は、作曲家、久石譲によるソロ・アルバム『Asian X.T.C』に収録された楽曲である。「美しく官能的でポップなASIA」という壮大なコンセプトを掲げた本作は、近年アジアでの活躍めざましく、民族音楽への造詣が深い久石ならではのサウンド・メイキングとなっている。原曲のアレンジにはなかったSEや民族楽器などを新たに追加して曲のイメージをより色濃く脚色してみた。

《Casa S.Francesco》は、アコーディオニスト・作曲家のcobaこと小林靖宏のオリジナル作品で、1998年に出版されたアルバム『CONCIOUS POSI』に収録されている。彼はヴェネツィアで学んだ高度な演奏テクニックと、クラシック、ロックというジャンルを横断する柔軟な音楽性により、ポピュラーミュージックの世界において、アコーディオンの新たな魅力を開花させた。この楽器の旧態依然とした古くさいイメージをがらりと変え、伴奏ではなく主役になり得ることを証明した彼の功績は、この作品からも十分にうかがうことができる。

《三つのジャポニスム》は、2001年に東京佼成ウィンドオーケストラの委嘱で、真島俊夫により作曲された人気の吹奏楽曲。《鶴が舞う》《雪の川》《祭り》の3曲で構成されるが、今回演奏する《鶴が舞う》は、丹頂鶴の求愛の躍りを表現している。作曲家自身の言葉によれば、「途中、鶴の羽ばたきと鳴き声の描写が入りませぬ」とのこと。高度な演奏技術を要する難曲である。



Profile

中国陝西省西安市出身。西安音楽学院卒業。4歳からクラシック・ピアノ、高校入学後から電子オルガンを学ぶ。周明珠、譚芸民、馮捷、高田和泉、岩崎孝昭の各氏に師事。

2. WANG QINGZI (電子オルガン)

H.ベルリオーズ / 幻想交響曲 作品14より
Hector Berlioz (1803-69) // Symphonie fantastique op.14
第2楽章 舞踏会 Un bal

J.コランジェロ / ドゥエンデ・イ・ミステリオ
José Colangelo (b.1940) // Duende y misterio

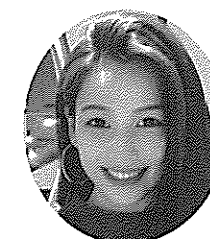
上原 ひろみ / トムとジェリーショー
Hiromi Uehara (b.1979) // The Tom and Jerry Show

【解説】

《幻想交響曲》は、フランスの作曲家エクトル・ベルリオーズが1830年に作曲した交響曲。彼自身の言葉によれば、「病的な感受性と燃えるような想像力をもつ若い音楽家が、恋に絶望し、発作的に阿片を飲む」という物語を表現している。第2楽章《舞踏会》はイ長調のワルツの楽章で、「舞踏会に出かけた彼〔芸術家〕は、晴れがましい祝宴の喧騒のなかに恋人の姿を見つける」という場面。ハーブが2台も使われている。最後にクラリネットに「恋する相手」を表す「固定楽想」が現れたらと思うと、熱狂的に盛り上がり、華やかに閉じられる。

《ドゥエンデ・イ・ミステリオ》は、アルゼンチン出身のピアニスト、作・編曲家、指揮者でもあるホセ・コランジェロが作曲し、1997年にドイツで初演された作品。彼の作風は古典的なタンゴに加えて、1940年代に新たに発明された現代的なタンゴ、更にはダンス要素の強いミロンガをも取り入れるものとなっている。本作は一般的な編成で構成されており、途中で登場するピアノソロとオーケストラとのコントラストが非常に美しく映える。

《トムとジェリーショー》は、ジャズ・ピアニストの上原ひろみのデビュー作であり、第18回日本ゴールドディスク大賞を受賞した『Another Mind』のボーナストラック。おっちょこちょいネコのトムと、追い掛けてくるトムをこども無げにさらりとかわす頭脳明晰なネズミのジェリーのドタバタ劇を描くアニメ『トムとジェリー』にインスパイアされて作曲したとされる。原曲はピアノソロによるが、多彩な電子オルガンの音色やリズムで独自に脚色し、コミカルに編曲した。



Profile

中国浙江省出身。浙江音楽学院流行音楽コース電子オルガン専攻を卒業後、2019年7月に来日。2018年第6回 Rinway 電子オルガン全国コンクール・クラシック部門第7位、2018年 Rinway 電子オルガン浙江音楽学院第1位、浙江省第一回アカペラコンクール第1位。任雪菲、高田和泉、岩崎孝昭の各氏に師事。

3. WANG WENHAO (電子オルガン)

P.I.チャイコフスキー / バレエ音楽《眠れる森の美女》作品66より
Pyotr Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // The Sleeping Beauty op.66
ワルツ Waltz

高梨 康治 (b.1963) / 『FAIRY TAIL』メインテーマ-Final version-

田中 秀和 (b.1987) / イリュージョニスタ

【解説】

《眠れる森の美女》は、ピョートル・チャイコフスキーの音楽によるバレエ作品で、100年眠ることになった姫が王子の愛の力で目覚めるといふ、シャルル・ペローの童話でも知られる物語に基づく。いわゆるチャイコフスキーの三大バレエの2作目にあたるが、そのなかでも最も演奏時間が長い。今回は、第1幕「オーロラ姫の4人の求婚者」において、村の若者たちが花を手に踊る大ワルツ(別名「ガーランド・ワルツ」)を抜粋して演奏する。

《『FAIRY TAIL』メインテーマ-Final version-》は、真島ヒロによる日本の漫画作品、およびTVアニメ『FAIRY TAIL』の主題曲で、作編曲家・キーボードアーティストの高梨康治が作曲。ケルティックメタル調のロックを軸にオーケストラを加えて色付けた印象的なアレンジが、原作のファンタジックな世界観を表現するのに一役買っている。フィドル、アコーディオン、ホイッスル、バグパイプなど、一部の民族楽器を除いて全て生楽器でレコーディングされたが、オーケストラの比重はそれほど大きくなく、ロックらしいビートの効いた一曲となっている。

《イリュージョニスタ!》は、バンダイナムコエンターテインメントとCygamesが開発・運営する『THE IDOLM@STER』の世界観をモチーフとする携帯端末専用のソーシャルゲーム『アイドルマスター シンデレラガールズ』を代表する楽曲である。作編曲家である田中秀和が作曲。J-Popにビッグバンドジャズのエッセンスを融合させた華やかなアレンジが特徴である。

4. ZHOU SHAOHUI (電子オルガン)

S.シュワルツ / ミュージカル《ウィキッド》より

Stephan Schwartz (b.1948) // Wicked
魔女を哀悼する人はいません No One Mourns The Wicked
私はあの女の子じゃない I'm Not That Girl
抗えない愛 Defying Gravity
善行なし No Good Deed
永遠 For Good

E.エルガー / 行進曲《威風堂々》第1番 作品39-1

Edward Elgar (1857-1934) // Pomp and Circumstance No.1 op.39-1

ZHOU SHAOHUI (b.1997) / 星芒 (Asterism)

【解説】

ミュージカル《ウィキッド》は、2003年の初演以来、ブロードウェーとウェストエンドにおいて10数年にわたってロングラン上演された。また世界14カ国で上演され、6つの異なる言語によるバージョンを通して5000万人以上の観衆を魅了した。そして、グラミー賞1つ、オリバー賞2つ、トニー賞3つを含む100以上の賞を獲得している。オズの魔法使いの陰謀を知ったエルファバが「悪い魔女」へ、そして彼女の友人グリンダが「良い魔女」へと立立てられ、2人の道が分かれていく物語は、現代の女性の善良さ、友情、愛情、独立と成長を描いているとして高い評価を受けている。

《威風堂々》というタイトルで、エルガーは1901年から1930年の間に5つの行進曲を作曲した。今回は最初の曲を演奏するが、これは最も成功したと見なされている。さらに、この第1番の音楽は、イギリス国王エドワード7世からの要望で作曲した《戴冠式頌歌》の終曲《希望と栄光の国》においても使われた。この《希望と栄光の国》はその後のイギリス国王の戴冠式においても演奏され、イギリスでは第2の国歌のような扱いを受けている。

オリジナル曲《星芒》創作の動機は、星の光が輝いている夏の夜を眺めたことである。今、私の魂は幸せな疲れのうちに大地の懐に横たわっている。夜空のたくさんの星を見て、青春を思い出す。流れ星のように短くても、活気にあふれた青春だ。このような光景と思いを曲にした。



Profile

中国出身。2017年に西安音楽学院を卒業。2019年には尚美ミュージック専門学校にて学ぶ。大木 祐一郎氏に師事。



Profile

中国広東省出身。2019年に星海音楽学院卒業。2015年に中国ヤマハ優秀編曲賞、アジア太平洋電子キーボード銀賞を受賞。現在、赤塚 博美、上原 直の各氏に師事。

5. XU HUAMIN (電子オルガン)

電子オルガン
11:25

D.ショスタコーヴィチ / 舞台管弦楽のための組曲より
Dmitry Shostakovich (1906-75) // Suite for Variety Stage Orchestra
第6曲 ワルツ第2番 Valse No.2

J.シベリウス / 交響詩《フィンランディア》作品26
Jean Sibelius (1865-1957) // Finlandia op.26

M.ヒメネス / ジョランダはどこへ行った?
Manuel Jimenez (1895-1975) // ¿Dónde Estás, Yolanda?

【解説】

ショスタコーヴィチは、ソビエト連邦の作曲家である。《舞台管弦楽のための組曲》は、1938年に作曲されたものの長らく消失していた《ジャズ組曲 第2番》と混同されていた。しかし実際は、1950年代以降に作られたまったく別の作品だったのである。この組曲は8曲から構成されるが、今日演奏する〈ワルツ第2番〉は6番目の曲。メロディもシンプルで親しみやすく、楽器の編成も豊かで、ダイナミックな曲になっている。

シベリウスの《フィンランディア》は、19世紀の末から20世紀初頭にかけて、彼の祖国フィンランドに対するロシアの圧政が強まった時期に作曲された。当初は舞台劇『歴史的情景』への付随音楽として1899年に作曲されたが、組曲に改編され、さらにその組曲のフィナーレが交響詩へと仕立てられた。情熱と愛国心にあふれたこの雄大な作品は、フィンランド国民の間で熱狂的に愛され、世界的にも有名な曲となった。〈フィンランディア讃歌〉と呼ばれる中間部の美しい音楽は、1940年にヴェイッコ・アンテロ・コスケンニエミによって歌詞をつけられ、さらにはシベリウス本人により男声合唱用に編曲された。こちらも現在に至るまで、第2の国歌のように広く歌われて愛されている。

《ジョランダはどこへ行った?》は、プエルトリコの作曲家 マニュエル・ヒメネスの作品。アメリカのジャズアンサンブルであるピンク・マルティーニ (Pink Martini) が、アルバム『サンパティーク (Sympathique)』に収録したことで知られるようになった。

6. JIN TINGYAN (電子オルガン)

P.I.チャイコフスキー / バレエ音楽《白鳥の湖》作品20より

Pyotr Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Swan Lake op.20
ワルツ Waltz

M.ラヴェル / 組曲《クープランの墓》より

Maurice Ravel (1875-1937) // Le Tombeau de Couperin
プレリュード Prélude
メヌエット Menuet

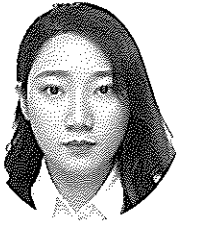
安藤 正容 (b.1954) / Morning star

【解説】

《白鳥の湖》は、ドイツの作家ヨハン・カール・アウグスト・ムゼーウスによる童話『奪われたヴェール』を元に作られたバレエに、チャイコフスキーが作曲した音楽である。第1幕の〈ワルツ〉は、王子の求めで村娘が踊るコールド・バレエ。弦楽器のピチカートによる序奏のあと、ワルツのリズムに乗って、弦楽器が優雅なメロディーを歌い始める。中間部では、変化に富んだメロディーが登場し、様々な表情を見せる。最初のメロディーが戻ってきて、華やかな雰囲気を作り上げて終わる。

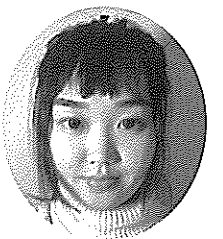
《クープランの墓》は、ラヴェルが18世紀の偉大な音楽家フランソワ・クープランの時代の舞曲を題材として作った作品。戦死した友人に捧げられた追悼曲でもある。オーケストラ版は〈プレリュード〉〈フォルラーヌ〉〈メヌエット〉〈リゴードン〉という4曲で構成されている。〈プレリュード〉はオーボエが牧歌的な主題旋律を奏し、16分の12拍子という変わったリズムで最初から最後まで演奏するのが特徴である。〈メヌエット〉は3部形式になっており、主部では古風でエレガントな主題旋律が演奏される。ミュゼットの中間部(トリオ)はト短調に転調し、主部と強いコントラストを形成する。

《Morning star》は、日本のフュージョンを代表するバンドであるT-SQUAREの14枚目のアルバム『wave』に収録されている曲。T-SQUAREのリーダー安藤正容が作曲した。この曲はイントロのキーボードのコード演奏から始まり、不安なイメージのサウンドから夜明けの景色を連想させる。その後登場するタイトなドラミングとリフがワクワクするような躍動感を感じさせる。



Profile

中国広西壮族自治区南寧市出身。広西芸術学院附属中等学校、広西芸術学院卒業。赤塚 博美、加曾 利 康之の各氏に師事。



Profile

中国吉林省延吉市出身。国立音楽大学音楽学部演奏・創作学科鍵盤楽器(ピアノ)専修卒業。大学の副科で平部やよい氏に電子オルガンを師事。現在は岩崎 孝昭、小川 真澄の各氏に師事。

7. DU DANYANG (電子オルガン)

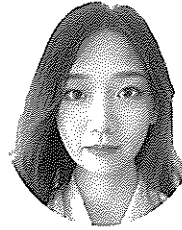
L.v.ベートーヴェン / 交響曲 第6番 へ長調 作品68 [田園] より
Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Symphony No.6 in F major op.68 "Pastoral"
第5楽章 Allegretto
羊飼いの歌。嵐の後の喜ばしく感謝に満ちた気持ち
Hirtengesang. Frohe und dankbare Gefühle nach dem Sturm

熊谷 徳明 (b.1970) / Tiger

【解説】

《交響曲 第6番 へ長調 [田園]》は、クラシック音楽の歴史において最も重要な作曲家の一人であるベートーヴェンが1808年に完成させた6番目の交響曲。5楽章から構成され、しかも第3楽章から第5楽章は連続して演奏されるというのは、古典派の交響曲としては異例である。さらに、ベートーヴェンは交響曲としては珍しく、全体及び各楽章に描写的な標題を付けている。音楽学者の藤田茂によれば、この交響曲は、その5つの楽章によってベートーヴェンが心に思い描く田園の生活のひとこまを音楽的に体験させようとしているが、この「田園」には、文字通り都市をはなれた田園地帯という意味とともに、この世を超越した理想郷(アルカディア)の意味も含まれるという。曲調は牧歌的で明るく、同時期に作られた《交響曲 第5番 八短調 [運命]》のシリアスな雰囲気とは対照的である。本日演奏する第5楽章(羊飼いの歌。嵐の後の喜ばしく感謝に満ちた気持ち)は、ロンド・ソナタ形式で作られている。

《Tiger》は、2001年に結成された日本を代表するフュージョン・バンド、TRIXのデビュー12周年の記念すべきアルバム「十二支」に収録された一曲。リーダーでありドラマーの熊谷徳明により作曲された。メンバーチェンジを経て音楽的に変化を遂げて来たバンドだが、遊び心を重視した点においては原点回帰とも言える作品となっている。



Profile

中国山西省太原市出身。2018年に四川音楽学院を卒業。現在、電子オルガンを高田 和泉氏に師事。

電子オルガン 13:40

8. DENG RUOHENG (電子オルガン)

H.レヴィ / ウィップラッシュ
Hank Levy (1927-2001) // Whiplash

P.メセニー / ジェームス
Pat Metheny (b.1954) // James

P.I.チャイコフスキー / 交響曲 第6番 口短調 作品74 [悲愴] より
Pyotr Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Symphony No 6 in B minor op 74 "Pathétique"
第4楽章 Adagio lamentoso

【解説】

《ウィップラッシュ》は、作曲家・サクソフォン奏者であるハンク・レヴィによって1973年に作られたビッグバンドの作品。2014年にアメリカで製作されたドラマ映画「セッション」の挿入曲として採用された。「Whiplash」の言葉の意味は「鞭を打つ」。ドラマーのスティックさばきの「鞭を打つ」ようなしなやかさと共に、苛烈なしごきをイメージさせるタイトルとなっている。本作は4分の7拍子であり、アップテンポなビートと相まって同映画の息をのむスリリングな展開の演出に一役買っている。

《ジェームス》は、ジャズギタリストのパット・メセニーが、リーダーを務めるパット・メセニー・グループのアルバム『Ofiramp』の中で発表したオリジナル作品。グループの主要メンバーでもあるピアニストのライル・メイズとの共作である。旧邦題は「ジェームス・テイラー」であり、グラミー賞獲得やロックの殿堂入りを果たしたアメリカ出身の実在する同名のシンガーソングライターに捧げられた曲とされている。すんなりと頭に入ってくる印象的なメロディの爽やかな曲調が特徴的であり、独特な味わいを出している。

ピョートル・チャイコフスキーにとって最後の交響曲となった《交響曲 第6番 口短調》は、副題の「悲愴」でも知られている。1893年10月16日に初演されたが、その9日後にチャイコフスキーは亡くなってしまった。本日演奏する終楽章は消えていくような終わりを迎えるが、作曲家チャイコフスキーの死の運命を予感しているかのようである。



Profile

中国広東省出身。広東省星海音楽学院大学を2019年に卒業。2016年 APEKA (Asian-Pacific Electronic Keyboard Association) International Competition in Tryout, Modern Music Group, Adult Class にて一等賞。2017年 Yamaha Electone Scholarship にて優秀賞を受賞。2020年 APEKA International Competition in Tryout, Classical Group, Adult Class にて一等賞ならびに最佳編曲賞を受賞。現在は、赤塚 博美、高田 和泉の各氏に師事。

9. LI MULAN (電子オルガン)

芥川 也寸志 (1925-89) / 交響管弦楽のための音楽より
第2楽章 Allegro

葉加瀬 太郎 (b.1968) / Wild Stallions

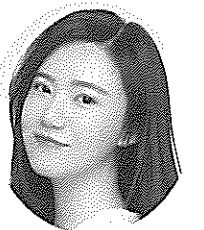
n-buna (b.1995) / 春ひさぎ

【解説】

《交響管弦楽のための音楽》は、作曲家 芥川也寸志の師である伊福部昭の影響を色濃く受けつつも、独自の作風を示した作品である。本日は、強烈なリズムに貫かれた第2楽章を演奏する。まず、シンバルの一撃のあと、トランペットとトロンボーンのエユニゾンにより第1主題が演奏される。その後、木管からミュート付きトランペット、弦楽器と受け継がれる律動的な第2主題、長音階の上昇と半音階の下降を繰り返すレガートの第3主題が現れ、ロンド形式を形成していく。最後は、第3主題、第2主題が再現され、打楽器と低音楽器のうなりの後、トゥッティの一撃で終了する。

《Wild Stallions》は、ヴァイオリニスト・作曲家である葉加瀬太郎の2002年のアルバム『VIOLINISM II』の1曲。さらに、彼がソロ活動を始めて10年目となる2006年に、代表曲15曲をヴァイオリンとピアノのデュエットによるシンプルなアレンジで新録音したアルバム『Sweet Melodies』にも収められている。

《春ひさぎ》は、2020年7月に発表されたヨルシカの3rdアルバム『盗作』に収められた曲。ジャジーな演奏と複雑なムードが魅力的である。ヨルシカは、作曲家・ギタリストのn-buna(ナブナ)がボーカルのsuis(スイ)と結成したバンドであるが、名前以外非公開で、顔も公には出していないので、声と音楽以外は謎に包まれている。



Profile

大連出身。遼寧師範大学音楽学院卒業。エレクトーンを岩崎 孝昭、上原 直の各氏に師事。

10. SUN YUPENG (電子オルガン) ★

C.サン=サーンス / 交響曲 第3番 八短調 作品78 [オルガン付き] より
Camille Saint-Saëns (1835-1921) // Symphony No.3 In C minor op.78 "Organ Symphony"
第2楽章より Maestoso

F.メンデルスゾーン / 《夏の夜の夢》序曲 作品21
Felix Mendelssohn (1809-47) // A Midsummer Night's Dream Overture op.21

H ZETT M (b.1978) / あしたのワルツ

【解説】

サン=サーンスが1886年に作曲した《交響曲 第3番 [オルガン付き]》は2楽章構成で、さらに各楽章が2つに分かれている。第2楽章の後半にあたる〈マエストロ〉は、偉大な並々ならぬ力に直面した時の感覚を描いているように思う。荘厳な八長調の和音から始まり、木管による優雅な旋律のかけあい、金管楽器による高らかなファンファーレなどが現れ、いくつもの旋律がフーガのように絡み合いながらクライマックスへと向かう。最後はオルガンとオーケストラが一体となり、熱烈かつ荘重な音楽へと昇華される。オルガンパートは、作曲家本人が優れたパイプオルガンの達人であったため非常に難しいが、パイプオルガン奏者にはとても好まれ、演奏されることが多い音楽である。

シェイクスピアの戯曲に基づく《夏の夜の夢》序曲は、1826年、メンデルスゾーンが17歳のときの作品。若さと新鮮さ、躍動感にあふれた音楽で、17歳の若者の幸せな生活と明るい気持ちの描写にもなっているかのようだ。それと同時に、神話的な幻想、自然の神秘的な色彩と詩情も展開されており、作曲家の後年の個性が早くも芽生えている名曲である。

《あしたのワルツ》は、ジャズ・バンド H ZETTTRIO (エイチ・ゼットリオ) が2015年に発表したアルバム『Beautiful Flight』の1曲。H ZETTTRIOのピアニストのH ZETT Mが作曲した。バンドの編成に合わせて、ピアノ、ベース、ドラムで演奏される曲で、メロディーが美しく人気がある。



Profile

中国河北省唐山市出身。唐山市第一中学、四川音乐学院卒業。電子オルガンを赤塚 博美、加智利 康之の各氏に師事。

ピアノ 10:00
▼
▼
▼
1. 河原 萌恵 (ピアノ)

- D.スカルラッチィ / ソナタ ヘ短調 K.19 L.383
Domenico Scarlatti (1685-1757) // Sonate per clavicembalo f-moll K.19 L.383
- D.スカルラッチィ / ソナタ 二長調 K.492 L.14
Domenico Scarlatti // Sonate per clavicembalo D-dur K.492 L.14
- J.S.バッハ / 半音階的幻想曲とフーガ BWV.903
Johann Sebastian Bach (1685-1750) // Chromatische Fantasie und Fuge BWV.903

【解説】

《ソナタ》(D.スカルラッチィ)は、練習曲集や組曲などの曲集として出版された小規模の鍵盤楽器のための作品である。しかしその中にも即興的、実験的で独創性にとんだ新鮮な感興が多く、簡潔な2部形式から溢れるばかりに盛り込まれている。《ヘ短調》K.19, L.383は、情緒的な表情といきいきしたリズムによって陰影のつく曲である。左手が右手を越える交差は、スカルラッチィの初期、中期のソナタの大きな特徴で、これは高音、低音の響きの対比やリズムの強調ばかりではなく、視覚に訴えた面白さでもある。《二長調》K.492, L.14は、好んで使用された二長調によるK.490, 491, 492の3部作の締めくくりとなったプレストの活発な曲。民族舞踊的なリズム、ギター的な音、鞭のような音など鍵盤楽器から新しい可能性を存分に引き出し、スケルツォ的な楽しさがある。

《半音階的幻想曲とフーガ》BWV.903 (J.S.バッハ)は、バッハの自筆譜は失われているが、現在約33の手稿譜が残されていることから、広く注目されていた作品といえる。幻想曲は、豊かな幻想をおもむくまという自由な自由度で繰り広げてゆき、後半には強い表現力のあるレチタティーヴォが置かれ、声楽の様式と器楽的な前奏曲を融合させたところにバッハの新しさが見受けられる。静かに幻想曲が終止すると、半音階書法を用いた大らかな主題が始まり、3声のフーガが展開される。転調と共に、厳格な中にも幻想曲風のイタリアのチェンバロの書法が影響しているとされる協奏曲的な低音のオクターヴ重複が見られる。爆発的な力の頂点に達した後、音階的な走句を伴って曲は結ばれる。

2. JIANG SUTING (ピアノ)

- F.ショパン / バラード 第1番 ト短調 作品23
Frédéric Chopin (1810-49) // Ballade Nr.1 g-moll op.23
- F.リスト / 愛の夢 第3番
Franz Liszt (1811-86) // Liebesträume Nr.3

【解説】

フレデリック・ショパンは1831年から1842年までにバラード(譚詩曲)を4曲作曲している。《バラード 第1番 ト短調》作品23は彼が作曲した最初のバラードで初期の代表作といえる。シュトゥックハウゼン男爵に献呈された。バラード4曲は複合2拍子で書かれている。

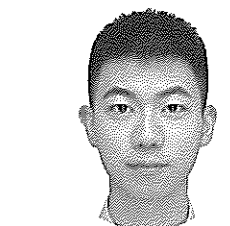
「バラード」は、「物語」を意味するフランス語が起源となっているようで、一般には、物語詩、譚詩(たんし)を指すものようだが、ロマン派時代以降は、音楽の中にも積極的に文学が取り入れられる傾向が顕著になり、「物語的、文学的な雰囲気のある音楽的作品」という意味合いを持つようになった。

フランツ・リストは、同じ形式で書かれた3曲を1850年に《愛の夢(3つのノクターン)》として出版した。第3番のはじめに掲げられた詩「愛せる限り愛せよ」はドイツの詩情詩人フライリグラート Freiligrath (1810-76)の作。これは少し長目の詩だが要約すれば「おお愛よ、愛、君が愛することができる間、いつまでも愛するがよい。君が墓の前に立って嘆く時がやがてやってくる。心が燃えている間愛し続けよ。いつも楽しくさせて決して悲しくさせてはならない」。この第3番は一番有名であり、リストの「愛の夢」といえばこの曲だと思っている人も多いほどの代表作である。その主題旋律は美しく、転調したハーモニーに変化が、台間台間にレチタティーヴォありカデンツァありと、一口に言ってロマンティックで、ドラマティックでもあることが最大の魅力である。



Profile

神奈川県出身。海老名高等学校普通科、洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。4歳からヤマハ音楽教室幼児科に学び、6歳よりピアノを始める。これまでにピアノを益田 美知子、三瓶 弥生の各氏に師事。フィンガートレーニングを恩田 明香氏に師事。



Profile

中国浙江省出身。7歳よりピアノを始める。寧 鵬東、呂 碩の各氏に師事。2018年に紹興文理学院を卒業した後、同年9月に来日し、日本語学校で1年半学ぶ。現在はピアノを吉武 雅子、齊藤 香織の各氏に師事。

3. 瀬筒 秀樹 (ピアノ)

- C.ドビュッシー / ロマンティックなワルツ
Claude Debussy (1862-1918) // Valse romantique
- C.ドビュッシー / ベルガマスク組曲
Claude Debussy // Suite bergamasque
第1曲 プレリュード Prélude
第2曲 メヌエット Menuet
第3曲 月の光 Clair de lune
第4曲 パスピエ Passepied

【解説】

《ロマンティックなワルツ》はドビュッシーの独自のスタイルがまだ確立していない、ショパン、ポロディン、マスネ、サン＝サーンス、フランク、フォーレなどの影響が色濃い1890年に作曲された。ヘ短調、4分の3拍子から成る。同じ年にはマズルカやバラードも作曲している。

《ベルガマスク組曲》は、4つの小曲から成っている。1890年から約15年かけて作曲しており、曲中からマスネ、サン＝サーンス、グリーグなどの影響が顕著にみられる。「ベルガマスク」というタイトルは、ドビュッシーが北部イタリアのベルガモ地方を訪問した際に地方独特の舞曲「ベルガマスカ」に強い影響を受けたことに由来しているなどの様々な説がある。第1曲(プレリュード)は、4分の4拍子の曲である。和音に支えられた厚みのある印象的な旋律が、リズムの変化や楽句の反復により展開していく。第2曲(メヌエット)は、4分の3拍子の曲である。曲中には「きわめて繊細に」と指示があり、教会旋法を巧みに使いながらもバロック以前の軽やかな古楽器のニュアンスが感じられる。第3曲(月の光)は、8分の9拍子の曲である。ヴェルレーヌの詩集「雅びた宴」の中の一つ「月の光」をイメージの源泉としている。第4曲(パスピエ)は、4分の4拍子の曲である。パスピエは本来3拍子の古舞曲であるが、ドビュッシーは4拍子にして、その舞曲のニュアンスを大切にしている。

ピアノ 12:15
▼
▼
▼
4. 高城 美希 (ピアノ)

- L.v.ベートーヴェン / ピアノ・ソナタ 第28番 イ長調 作品101
Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Sonate für Klavier Nr.28 A-dur op.101
- 第1楽章 Etwas lebhaft und mit der innigsten Empfindung (幾分速く、そして、非常に深い愛情をもって)
- 第2楽章 Vivace alla Marcia (生き生きと、行進曲風に)
- 第3楽章 Langsam und sehnsuchtsvoll (ゆっくりと、そして憧れに満ちて) - Geschwinde, doch nicht zu sehr und mit Entschlossenheit (速く、しかし速すぎないように、そして断固として)

【解説】

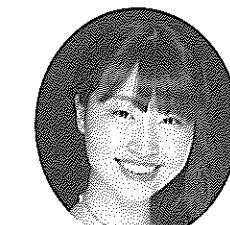
この作品は、1816年11月に完成されたと考えられ、ベートーヴェンの自慢の弟子であったドロテア・エルトマン夫人に献呈された。数年前から陥っていたスランプからようやく脱し作曲されたこのソナタは、ベートーヴェンのいわゆる後期様式の最初の作品だとも言われ、初期ロマン主義様式を見出している。ここでは既に、多彩な和声の使い方やカンタービレな旋律性など、シューベルトやシューマンのピアノ曲に見られるような語法が見られる。

第1楽章、規模の小さい自由なソナタ形式。あたかもホ長調の開始であるかのようにイ長調の属和音から始まり、そのままなかなか主和音に到達することなくゆったりと漂い続ける。自然な流れと美しいまとまりを持った楽章。第2楽章、トリオ的な中間部を挟む3部形式。主題は厳格で強烈な付点のリズムのエネルギーが支配的で、中間部のトリオはカノン風の対話によって進行する。力強さと繊細さを併せ持つ幻想曲風の音楽である。第3楽章、序奏部とソナタ形式による主部から構成されたフィナーレ。長い導入部で始まり、短いカデンツァを介して第1楽章の冒頭主題部の回想を導いたのち、終楽章主部であるソナタ主部へと続く。主部はオクターブや和音を使って華やかに進んでいき、展開部のフーガ的書式が特徴的である。



Profile

東京都八丈島出身。都立八丈高等学校、国立音楽大学音楽学部演奏学科鍵盤楽器(ピアノ)専攻卒業。ピアノを安井 耕一、日下文葉、大類 朋美の各氏に師事。



Profile

福岡県出身。4歳よりヤマハ音楽教室で学ぶ。洗足学園音楽大学ピアノコースを卒業。在学中、2019年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。同年、「電子オルガンによる管弦楽曲とピアノ協奏曲のタペ」にソリストとして出演し、モーツァルトの《ピアノ協奏曲 第21番》を演奏。2017年音の夢ピアノコンクール第1位、室内楽賞を受賞し、九州室内合奏団と共演。第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会入賞。ラ・フォル・ジュルネ TOKYO2018にて丸の内エリアコンサートに出演。現在ピアノを江崎 昌子氏に師事。

5. 田中 広輝 (ピアノ)

C.ドビュッシー / 《版画》

Claude Debussy (1862-1918) // Estampes

第1曲 塔 Pagodes

第2曲 グラナダの夕べ La soirée dans Grenade

第3曲 雨の庭 Jardins sous la pluie

【解説】

第1曲〈塔〉(パゴダ)、第2曲〈グラナダの夕べ〉、第3曲〈雨の庭〉よりなるピアノ曲集《版画》は、1890年代半ばごろから作曲が始められた。1903年に完成して出版され、翌年に《ピアノのために》に引き続いてヴェニエスにより初演された。《版画》は画家のジャック・エミール・ブランジュ(1861-1942)に献呈されたが、第2曲〈グラナダの夕べ〉は小説家で詩人のピエール・ルイス(1870-1925)に贈呈されている。

《版画》についてドビュッシー本人が書いた手紙には「曲名が特に気に入っている」と記されている。これまでのピアノ曲は〈月の光〉を除き、専ら組曲やプレリュードといった既存の形式名、曲種を示す曲名であったのに対し、《版画》は3曲とも、いかなる音楽形式、曲種とも関係のない固有の曲名が付けられていることは注目に値する。これは、続く2集の《映像》、2集の《前奏曲集》に受け継がれ、さらにイメージ豊かな、詩的且つ絵画的でユニークな曲名が付けられることになり、彼が一般的に「印象派作曲家」と呼ばれるところの起因となっている。

《版画》は第1曲がオリエント、第2曲はスペイン、第3曲フランスから題材をとっており、音楽紀行さながらの内容となっているところに大きな特色がある。とりわけ東洋の寺院をイメージして、ペンタトニックスケール(五音音階)を多用して書かれた第1曲〈塔〉(パゴダ)のオリエンタルな響きは、これまでの西洋音楽の常識を完全に覆した独自の音楽となっている。

6. 林 菜月 (ピアノ)

R. シューマン = F. リスト / 献呈 S.566 R.253

Robert Schumann (1810-56) = Franz Liszt (1811-86) // Widmung S.566 R.253

F. メンデルスゾーン / 厳格なる変奏曲 二短調 作品54

Felix Mendelssohn (1809-47) // Variations sérieuses op.54

【解説】

1848年にリストが編曲した《献呈》の原曲は、結婚前夜にシューマンから花嫁のクララに贈った、1840年に作曲された歌曲集《ミルテの花》の第1曲目。曲集の名前となっているミルテの花は純潔を象徴する白い花で、花言葉は愛。やっとの思いで結婚に漕ぎ着けたシューマンの、幸せと喜びに溢れた曲である。輝かしく変イ長調で始まり、中間部でホ長調に転調する。幻想の世界から現実へ引き戻されるように変イ長調に戻り原曲では祈るように曲を閉じる。編曲後は勢いを最後まで増し、一つの曲として完結している。シューマンの書いた曲の持つ輝きはそのままに、リストのピアノ独奏曲として、より華やかに編曲されている。

《厳格なる変奏曲》は1841年に作曲完成された。19世紀前半において「変奏曲」というのは、主題はポピュラーな歌や歌曲、オペラなどからとられ、派手な技法を披露するためのどちらかというと軽い曲に見られていた。だが、J.S.バッハやベートーヴェンを尊敬し、影響を受けたメンデルスゾーンは当時の変奏曲の概念とは少し異なり、題名通り厳格に荘厳に作曲している。全体は、主題、17の変奏、コーダという構成で作曲されている。全体を通して二短調で緊張感を保っているが、穏やかな曲想の第5変奏、第10変奏、唯一の長調である第14変奏をはさむことで更に色彩を加えている。第16変奏からは休みなしに終結に向けて緊張感を増し、劇的に曲を終える。



Profile

東京都八王子市出身。洗足学園音楽大学音楽教育専攻卒業。3歳よりピアノを、15歳よりトランペットを始める。これまでにピアノを浅岡 尚子、声楽を若島 広昭の各氏に師事。現在ピアノを堀木 良子、トランペットを班目 加奈の各氏に師事。第26回ヤングアーティストピアノコンクールファイナル(ピアノ部門)にて入賞。東京都八王子市中学校吹奏楽指導要員。



Profile

神奈川県出身。県立弥栄高等学校音楽専攻卒業。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。学部3年次、ウィーン研修にて現地での選抜演奏会に出演。4年次では室内楽研究、成績優秀者として、管・弦・打・ピアノ室内楽オーディション合格者による室内楽コンサートvol.23に出演。室内楽を清水 将仁氏に師事。現在、江崎 昌子、谷川 明の各氏に師事。

二胡 7. CHEN ZIZHUO (二胡)

14:15

劉 天華 / 月夜

Liu Tianhua (1895-1932) // Moonlight Night

劉 天華 / 苦悶之謳

Liu Tianhua // Song of Depression

劉 天華 / 燭影搖紅

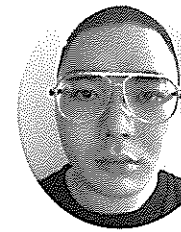
Liu Tianhua // Dancing by Candlelight

【解説】

《月夜》(1924年8月に作曲、以下同様)は、3つの部分に分けられ、各部分の終わりがいずれも同じフレーズから成り、まるで一唱一嘆、月夜に対して心からの賛嘆の声を表したものである。曲全体が伸びやかで、柔らかな美しいメロディを持ち、一幅の詩情に溢れた絵心、月が白く輝き、清々しい風が吹き渡る月夜の構図を表現しており、優雅でのんびりした情趣に溢れている。

《苦悶之謳》(1926年8月)は、各段落をおって発展、変化していく多段落構造の楽曲であり、同時にヴァイオリンの弓法を借用して一種の快速運弓の二胡演奏技巧に発展させている。楽曲は劉天華の内心の苦悶、焦慮、現実に対する不満と憤慨を表現している。

《燭影搖紅》(1932年5月11日)は、民族音楽の中で比較的数少ない3/8および12/8拍子を採用して創作したもので、この独特なリズムによって赤い蠟燭が風の中で揺らめいている姿を表現している。変奏曲形式の舞曲となっているが、やや感傷的な面を持つ。劉天華はこの作品において、自身の洋楽学習の成果を生かして、民族的曲調と洋楽の要素を融合させ、新しい傾向の音楽を創造することに成功している。



Profile

中国出身。2018年6月、西南民族大学芸術学院二胡演奏専攻卒業。現在、許可氏に師事。

木管楽器 10:00
▼
▼
▼
1. 五十嵐 蓮 (サクソフォーン)

Pf. 中村 真幸

E.デニゾフ / アルトサクソフォーンとピアノのためのソナタ

Edison Denisov (1929-96) // Sonate pour Saxophone Alto et Piano

- 第1楽章 Allegro
- 第2楽章 Lento
- 第3楽章 Allegro moderato

E.デニゾフ / 2つの小品

Edison Denisov // Deux Pièces pour Saxophone Alto et Piano

- 第1曲 Lento
- 第2曲 Allegro giusto

【解説】

E.デニゾフの《ソナタ》は、1970年にフランスのサクソフォン奏者ジャン・マリー・ロンデックスの委嘱で書かれた曲であり、同年にシカゴで行われたワールド・サクソフォン・コンGRESS (世界サクソフォン会議) で紹介されて後の現代作品に大きな影響を与えた。第1楽章はソナタ形式となっており、定まった拍子があるわけではなく、細かい音符や同音連打、サクソフォンとピアノの2声の掛け合いなどで曲は進められ、ピアノの独奏による同音連打で締めくくられる。第2楽章は拍節を感じさせないサクソフォンのソロによって静かに始まる。この曲以前には使用されなかったサクソフォンの重音や微分音がいわれている。トレモロで上行する音型が2度使われ、ピアノを加えて静かに第3楽章に続いていく。第3楽章はピアノの左手によるジャズのベースのようなオスティナートから始まり、サクソフォンによる12音技法を用いた即興的な旋律によって演奏されていく。ピアノの合いの手やサクソフォンとのユニゾンによって曲は熱を帯びていき、コーダでは3連符を中心として曲が盛り上がり、第1楽章と同様、同音連打で曲は閉めくくられる。

同じくデニゾフの《2つの小品》は1978年に作曲されている。2つの楽曲で構成されており、第1曲は先ほどのソナタの第2楽章を彷彿とさせ、ピアノとの掛け合いが即興的な旋律の中に緊張感を生みだす。第2曲はソナタの第1楽章を思い出させるがこちらは最後まで一貫して4分の2拍子で書かれている。16分音符単位でのアンサンブルを基本とし、リズムカルな楽章ではあるが緻密な曲となっており、最後にはリズムが重なるって終わりを迎える。

2. 澁谷 隆宏 (サクソフォーン)

Pf. 中村 真幸

H.トマジ / サクソフォーン協奏曲

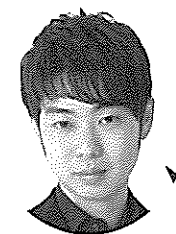
Henri Tomasi (1901-72) // Concerto pour saxophone alto et orchestra

- 第1楽章 Andante et Allegro
- 第2楽章 Final Giration (終曲 旋回)

【解説】

《サクソフォーン協奏曲》は、フランスの作曲家であるH.トマジによって1949年に作曲された。トマジはG.コサードにピアノと対位法を、P.ヴィダルに作曲を、P.ゴーベルに指揮を学んだ。1927年にローマ大賞を獲得し、57年にはフランス音楽大賞を授与された。様々な分野に作品を残しているが、特に《トランペット協奏曲》や《トロンボーン協奏曲》など、協奏曲の分野で多くの傑作を残している。また映画音楽の分野でも活躍し、情景を映し出す色彩豊かな作品は高い評価を受けている。

《サクソフォーン協奏曲》は、同年に行われたパリ国立高等音楽院における実技試験の課題曲とされ、同時に、サクソフォーンの歴史的名手であり、パリ国立高等音楽院の教授を務めたM.ミュールに捧げられている。第1楽章、序奏部は同時に複数の調性の和音が存在する複調による和声の構成が特徴的である。複調の技法は、同時代にフランスで活躍したミヨーなど作曲家からの影響が考えられる。アレグロに入ると、オスティナートが特徴的な4分の5拍子のリズムカルな音楽が展開される。最後はアンダンテの主題が再現され楽章が結ばれる。第2楽章、第1楽章とは対照的な疾走感のある音楽が展開される。勢いは次第に増してゆき、頂点に達した後、第1楽章のアンダンテの主題が再現され、楽曲は壮大なフィナーレを迎える。



Profile

京都出身。大阪音楽大学管楽器専攻卒業。井上 麻子、本堂 誠の各氏に師事。



Profile

山口県出身。島根大学教育学部音楽教育専攻卒業。サクソフォーンを池上 政人、安部 浩信、桑野 尚文の各氏に師事。室内楽を池上 政人氏に師事。

3. XIAO QIANYI (サクソフォーン)

Pf. 中村 真幸

A.ウェニヤン / ラプソディ

Andre Waignein (1942-2015) // Rhapsody

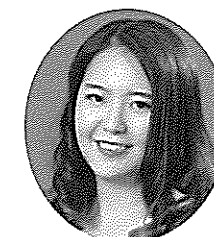
A.デザンクロ / プレリユード、カデンツァとフィナーレ

Alfred Desenclos (1912-71) // Prelude, Cadence et Finale

【解説】

アンドレ・ウェニヤンはベルギーの作曲家、指揮者である。《ラプソディ》は2010年にベルギーで開催された第5回アドルフ・サクソ国際コンクールのために作曲された、アルト・サクソフォーンとオーケストラまたはピアノのための作品である。サクソフォーンの演奏技術の多様性と華麗さを深く追求すると同時に作品としての明快さが得られるように工夫されている。全曲は3つの楽章からなる。第1楽章は10個以上の素材を使用しており、多様な演奏技術が求められているため、奏者の試金石になっている。第2楽章はリリカルな旋律が徐々に変化し、華麗に展開していく。第3楽章はテンポが非常に速く、前の楽章の静けさとは著しく対比される。総じて作曲家の実力を誇示するとともに、演奏家の技術や音楽性も楽しめる曲である。

アルフレッド・デザンクロはフランスの作曲家。「ロマン主義者」と自称し、確かな作曲技術に裏打ちされた作品には高度な表現力とスケール感がある。1956年に作曲された《プレリユード、カデンツァとフィナーレ》はクラシック・サクソフォーンのレパートリーのなかでは比較的良好に知られている。全曲は3つの部分からなり、第1の部分は全曲のテーマが奏でられて発展される。続く部分は自由的なカデンツァで、演奏者の高い音楽性が求められる。最後の部分はテンポが速くて技術的にも難しいドラマチックな曲である。



Profile

上海生まれ。11歳からサクソフォーンの勉強を始める。2008年上海音楽学院管楽器専攻に入学し、洪 竟立氏に師事。2012年に卒業後、上海軽音楽団に入団し演奏員を務めた。2018年、クロアチア世界サクソス大会に参加。長年にわたり合奏の研究および実践を続けている。現在、池上 政人、松下 洋の各氏に師事。

木管楽器 11:20
▼
▼
▼
4. CHENG YI-CHIEH (サクソフォーン)

Pf. 中村 真幸

W.オルブライト / アルト・サクソフォーンとピアノのためのソナタ

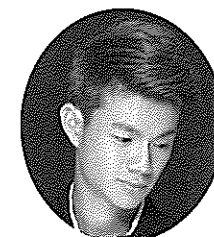
William Albright (1944-98) // Sonata Alto Saxophone and Piano

- 第1楽章 Two-Part Invention (2声のインヴェンション)
- 第2楽章 La Follia nuova: A Lament for George Cacioppo (新しいフォリア: ジョージ・カッチョッポへの哀歌)
- 第3楽章 Scherzo, 'Will o' the wisp' (スケルツォ、[ウィル・オー・ザ・ウィスプ])
- 第4楽章 Recitative and Mad Dance (レチタティーヴォと凶暴なダンス)

【解説】

W.オルブライトは1944年生まれのアメリカの作曲家である。ジュリアード音楽院、ミシガン州立大学、パリ音楽院でメシアンらに作曲を学び、帰国後はミシガン州立大学の教授として活躍した。サクソフォーン三重奏曲や四重奏曲、サクソフォーンと吹奏楽のための作品など数多くのサクソフォーン作品を手がけ、1998年に53歳で亡くなった。

《アルト・サクソフォーンのためのソナタ》は1984年の作品。第1楽章は《2声のインヴェンション》と記され、バロック時代の作曲家ヨハン・セバスティアン・バッハと、20世紀のミニマル・ミュージックという時代も作風も異なった音楽の影響を受けている。リズムとサクソフォーンの音量のコントロールが難しい。第2楽章《新しいフォリア》は、3拍子でゆっくりとしたシャコンヌ風の楽章。「フォリア」も「シャコンヌ」もバロック時代の変奏曲を指すが、この楽章は、友人の作曲家に捧げた「ジョージ・カッチョッポへのラメント(哀歌)」と題され、哀感に満ちた美しい曲である。第3楽章の《スケルツォ》は非常に短いが、高音が多い難曲である。第4楽章《レチタティーヴォ》ではルバートが用いられ、無伴奏のカデンツァを経て表記通りの「マッド(狂癡)なダンス」となる。



Profile

台湾台北市で生まれる。9歳からサクソフォンを始める。2007年、新莊小学校卒業。2010年、光仁高級中学校音楽系卒業。2014年、私立培徳高職音楽系卒業。2019年、国立台北芸術大学卒業。2017年10月から2018年3月まで京都市立芸術大学に交換留学生として在籍。これまでにサクソフォンを Kenny tsai、須川 展也、國末 貞仁、池上 政人の各氏に師事。2012年、台湾音楽全国大会で第3位。2014年、台湾音楽全国大会で第3位。2018年、台北音楽全国大会で第1位。現在、東京芸術大学科目等履修生としても研鑽を積んでいる。

5. 府川 悠理 (フルート)

Pf. 岡部 彩

R.ムチンスキー / フルートとピアノのためのソナタ 作品14

Robert Muczynski (1929-2010) // Sonata For Flute and Piano op.14

- 第1楽章 Allegro deciso
- 第2楽章 Scherzando (Vivace)
- 第3楽章 Andante
- 第4楽章 Allegro con moto

F.シューベルト / 「しぼめる花」の主題による変奏曲 ホ短調 作品160 D.802

Franz Schubert (1797-1828) // Variationen über das Lied 'Trockne Blumen' e-moll op.160 D.802

【解説】

ムチンスキーは1929年シカゴに生まれる。生涯にわたって大学で作曲、ピアノ、理論の教鞭をとりながら、ピアノ協奏曲、交響曲、室内楽など多くの作品をのこした。無調性音楽や十二音技法などの新しい音楽スタイルが登場した20世紀に生きたが、19世紀のロマンチックなスタイルに固執し、独自の音楽スタイルを確立した《フルートとピアノのためのソナタ》は1961年に作曲、同年ニース国際音楽アカデミーで国際現代音楽協会賞を受賞した。全楽章を通して特徴的なリズムと変拍子がちりばめられ、まるでジャズのようなものである。

シューベルトはオーストリアの作曲家である。《「しぼめる花」の主題による変奏曲》の主題は1823年に作曲された彼自身の連作歌曲《美しき水車屋の娘》D.795の第18曲《しぼめる花》であり、その翌年の1824年にフルートとピアノのための変奏曲として、作曲家の友人でウィーン音楽院の名誉教授だったF.ボークナーのために作曲された。原曲の歌詞「彼女がくれたこの花を私と一緒に葬ってください…」という歌詞にあたる最初の部分は、ホ短調で葬送行進曲風に演奏される。フルートがしずかに旋律を吹きはじめるが、すぐにイ長調へと大胆でいて自然な流れで転調するところにシューベルトの音楽の特徴がうかがえる。そして、沈んだ寂しい表情の旋律ののち、死後にわずかな希望を抱くようにホ長調に転調する。甘美な夢のような雰囲気を感じさせ、華やかに力強く曲を閉じる。変奏曲は、この主題と7つの変奏から構成される。



Profile

神奈川県藤沢市出身。12歳よりフルートを始める。洗足学園音楽大学音楽器コース卒業。イ・ソヨン氏のマスタークラスを受講。これまでにフルートを塩谷 信洋、山田 州子の各氏に師事。室内楽を菅井 春恵、上野 由恵の各氏に師事。

7. 吉村 由望 (フルート)

Pf. 岡本 知也

Th.ベーム / フルートとピアノのためのグランド・ポロネーズ 二長調 作品16

Theobald Boehm (1794-1881) // Grand Polonaise in D major for Flute and Piano op.16

G.ショッカー / エアポーン

Gary Schocker (b.1959) // Airborne for Flute and Piano

【解説】

《グランド・ポロネーズ》はドイツのフルート奏者、フルート製作者、作曲家であるテオバルト・ベームの作品である。今日、世界中のほとんどのフルート奏者がベームの考案した「ベーム式」と呼ばれる楽器を用いている。それまでのシンプルな木製で内管が円錐形の楽器から、多くのキーがついた銀製の円筒形のフルートに改良されたことで、正確な音程や輝かしい音色に加え、音量の幅も広がった。この作品では当時の新しい楽器の特性を生かし、華やかな技巧がふんだんに織り込まれている。アダージョのマエストロの序奏に続いて奏される鮮やかなポロネーズには、目の覚めるような輝かしさがある。歌心のある二つのトリオを合奏で曲は華麗に繰り広げられ、最後はプレストのコーダで曲を結ぶ。息もつかせぬ展開によって聴衆を惹きつける。

《エアポーン》はアメリカのフルート奏者、作曲家、ピアニストであるゲイリー・ショッカーの作品である。1991年に作曲され、ショッカーの師であるジュリアス・ベーカーに献呈されている。フランス近代音楽の手法をジャズ的に扱うショッカーの独自の書法には遊び心をくすぐるような親しみやすさがあり、一度聴いたら忘れられない魅力がある。全体はモデラートの「歌」を中心に展開する部分と、アレグロによるロンドの二つの部分からなる。冒頭部分ではジャズの雰囲気漂う中、フルートのメロディが心地よく流れ出す。突然のアレグロ・ヴィヴォで曲は新たなテーマとともに活気づき、転調を繰り返しながら色彩を変化させていく。空中を彷徨うような美しい旋律と、ユーモアに溢れたエネルギッシュなダンスとの対比が魅力的な作品である。



Profile

島根県出身。9歳よりフルートを始める。島根大学教育学部音楽教育専攻を卒業。第54回島根県高等学校音楽コンクール木管楽器の部第1位。現代音楽セミナー「吉台の夏2017」において村上 景子氏のマスタークラスを受講。ディプロマを取得。学内コンサート「大学院コンチェルトの夕べ」オーディションに合格し、ソリストとして洗足学園音楽大学大学院管弦楽団、現田 茂夫氏と共演。これまでに山本 小織、野坂 知子、野津 雄太、菅原 潤の各氏に師事。

木管楽器
12:20

6. 山崎 春奈 (フルート)

Pf. 岡本 知也

C.ニールセン / フルート協奏曲

Carl Nielsen (1865-1931) // Flute Concerto

- 第1楽章 Allegro moderato
- 第2楽章 Allegretto-Adagio ma non troppo-Allegretto-Tempo di marcia

【解説】

C.ニールセンは、ロマン派以降のデンマークを代表する作曲家。貧しい家庭に生まれ、コペンハーゲンのデンマーク王立音楽院で学び、デンマーク王立劇場オーケストラのヴァイオリン奏者として活動する傍ら作曲を続けた後、王立コペンハーゲン音楽院の理事に就任。コペンハーゲン音楽協会の指揮者としても活躍した。作曲家として、6つの交響曲の他、3つの協奏曲、管弦楽曲、オペラ、室内楽曲等、多彩な作品を残しており、強烈な個性によって、これらの作品は20世紀デンマークの音楽界に決定的な影響を及ぼした。

1922年、コペンハーゲン管楽五重奏団の為に《管楽五重奏曲》を作曲して大成功を収めたニールセンは、団員それぞれに協奏曲を献ずることを決め、最初に完成したのが《フルート協奏曲》だ。2作目の協奏曲であるこの曲は、1926年10月1日に完成され、10月21日にパリで初演、翌年に改訂稿が発表された。前作の《ヴァイオリン協奏曲》と同じく2つの楽章で構成されている。なお、本日はオーケストラに代えてピアノで演奏する。第1楽章、活気に満ちた序奏の後、フルートが奏でる舞踏的な第1主題が続き、ピアノによって穏やかな第2主題が提示される。フルートとピアノが、独特で不安な響きを奏でていくが、やがて室内楽的な雰囲気の中で、静かに楽章を閉じる。第2楽章、律動的なモチーフで始まり、フルートが優雅で舞曲的な主題を示す。様々に変容された後の挿入部では3拍子に変化し、フルートに新しい主題が奏される。再び舞曲風の主題が戻り、曲の後半では行進曲風の主題が発展していく。最後は技巧的で華やかなフルートが奏でられ、短いコーダをもって曲を終える。



Profile

三重県出身。8歳よりフルートを始める。国立音楽大学演奏・創作学科弦管打楽器専修フルート専攻卒業及び管打楽器ソリスト・コース修了。大友 太郎、菅井 春恵、高橋 聖純、室木 志穂の各氏に師事。第18回みえ音楽コンクールフルート部門中学生の部第1位及び岡田文化財団賞。大学在学中、故H.シュマイザー、S.ティリー各氏のマスタークラス、小泉 浩氏の特別公開講座を受講し、研鑽を積む。2016年6月、フルートカルテットChou Chou Torteを結成。福祉施設、ホテル、レストラン等での演奏や、3度の自主企画公演、コンクールへの出場等、アンサンブルでの活動も積極的に行う。

8. 石川 敦也 (テノール)

Pf. 岩野 琴葉

13:30

G.ロッシーニ / 歌曲集《音楽の夜会》より
Gioachino Rossini (1792-1868) // Serate musicali
第1曲 約束 La promessa

G.ロッシーニ / 歌曲集《老いの過ち》第3巻「慎み深い小品集」より
Gioachino Rossini // Pêchés de vieillesse, Vol III: Morceaux réservés
第2曲 亡命者 L'esule

V.ベッリーニ / 歌劇《清教徒》より
Vincenzo Bellini (1801-35) // I Puritani
ああ、愛する君のために A te, o cara

G.ドニゼッティ / 歌劇《ラ・ファヴォリータ》より
Gaetano Donizetti (1797-1848) // La Favorita
清らかな天使よ Spirto gentil

【解説】

〈約束〉は歌曲集《音楽の夜会》の第1曲目であり、詩はピエトロ・メタスタージオによる。最愛の人に対して、自分の愛が本物で、心変わりなどしないと約束する内容の曲である。

〈亡命者〉は歌曲集《老いの過ち》第3巻に収められた曲であり、詩はジュゼッペ・トッレによるもの。祖国に帰りたくても帰れない亡命者が故郷であるイタリアの地を思って歌われる曲である。

《清教徒》は、ベッリーニによって作曲された最後の歌劇。台本はカルロ・ペーポリが執筆したもので、1835年にパリで初演された。17世紀半ばのイングランドにおける王党派と議会党派（清教徒）との争いを舞台にしたこの歌劇の中で歌われるアリア〈ああ、愛する君のために〉は、騎士アルトゥーロが婚約者であるエルヴィラへの愛を華やかに歌うアリアである。

《ラ・ファヴォリータ》は、ドニゼッティによって作曲された歌劇。台本はアルフォンス・ロワイエとギュスターヴ・ヴァエズによって執筆されたもので、1840年にパリで初演された。もともとはフランス語で作曲された歌劇であるが、後にイタリア語に翻訳され、イタリア語版も多く上演されている。14世紀半ばのスペインの宮廷と修道院が舞台となっていて、〈清らかな天使よ〉は、愛するレオノーラが王の愛人であることを知ってしまった修道士フェルナンドが、彼女を簡単には忘れられない苦しみを神に吐露しているアリアである。

9. 後藤 ゆずか (ソプラノ)

Pf. 皆川 純一

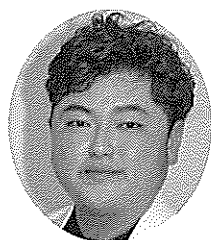
G.ロッシーニ / 歌曲集《老いの過ち》第1巻「イタリアのアルバム」より
Gioachino Rossini (1792-1868) // Pêchés de vieillesse, Vol I: Album italiano
第5曲 フィレンツェの花売り娘 La Fioraia Fiorentina

V.ベッリーニ / 歌劇《夢遊病の女》より
Vincenzo Bellini (1801-35) // La Sonnambula
ああ、信じられないわ Ah! non credea mirarti
ああ、私に満ちるこの喜び Ah! non giunge

【解説】

〈フィレンツェの花売り娘〉は、《老いの過ち》第1巻イタリアのアルバムの第5曲である。第1節では、恋する娘や花嫁のためにお花はいかがと、愛らしく歌う。第2節では、私のかわいそうなお母さんが助けを求めていると、軽快に歌っている。まるで花を売る相手を見極め、あの手この手で売っているかのようだ。

歌劇《夢遊病の女》の舞台は19世紀のスイス。水車小屋の女主人テレーザの養女アミーナは、村の裕福な青年エルヴィーノとの結婚を間近に控えている。その夜、村に訪れていた領主ロドルフォの部屋に夢遊病のアミーナが現れ、そのまま部屋のベッドに横たわって眠ってしまう。それを見たエルヴィーノに横恋慕している宿の主人リーザは、彼の所に報告に行き、村人やエルヴィーノがやってきてアミーナは目を覚ます。伯爵の部屋にいるアミーナを見てエルヴィーノは彼女をなじるが、彼女は釈明できない。村人や伯爵も彼女の潔白を証明するが、エルヴィーノは信じようとせず、アミーナとの結婚を諦めようと、彼女の指から指輪を抜いてしまう。アミーナは細い水車小屋の橋を夢中遊行しながら、恋人の愛を失ってしまったことを花が萎れるのにとえて、アリア〈ああ、信じられないわ〉を歌う。失恋の悲しみと自らの潔白を歌うこの曲は、自然な発音に音楽を合わせることで、情感の深さと哀愁を伝えている。エルヴィーノはそのアミーナの様子を見て、疑った事を詫言、彼女の手指輪をはめ直す。アミーナは喜びにあふれ、フィナーレのカバレッタ〈ああ、私に満ちるこの喜び〉を歌い、一同の祝福の中、幕となる。



Profile

福井県出身。洗足学園音楽大学音楽教育コース卒業。大学院より音楽専攻に転向。声楽を相田 麻純氏に師事。



Profile

宮城県出身。洗足学園音楽大学音楽コース声楽専攻卒業。2017年様々な障害ある人ない人による演劇祭「チャレフェス演劇祭」にチャレフェス歌劇団として出演。2018年多摩美術大学コラボオペラ《魔笛》(日本語上演)で童子1を演じる。音楽大学在学、卒業生による混声合唱団「カンマーコール」や、女声合唱団「ゆめの缶詰」として数々の演奏会に出演。これまでに松金 正雄、大井 範子の各氏に師事。

10. ZHANG YIJIAO (メゾソプラノ)

Pf. HE XUAN

V.ベッリーニ / 歌曲集《3つのアリエッタ》より
Vincenzo Bellini (1801-35) // Tre Arie
第2曲 フィッリデの悲しげな姿よ Dolente immagine di Fille mia
第3曲 優雅な月よ Vaga luna, che inargenti

V.ベッリーニ / 歌曲集《6つのアリエッタ》より
Vincenzo Bellini // Sei Arie
第1曲 マリンコニア Malinconia, Ninfa gentile
第6曲 喜ばせてあげて Ma rendi pur contento

C. サン・サーンス / 歌劇《サムソンとデリラ》より
Camille Saint-Saens (1835-1921) // Samson et Dalila
あなたの声に心が開く Mon cœur s'ouvre à ta voix

【解説】

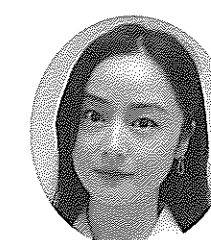
ベッリーニの《3つのアリエッタ》として現在知られている3つの歌曲は実は、作曲と出版の時期が異なっている。その第2曲〈フィッリデの悲しげな姿よ〉は1821年に作曲された。歌詞の作者についてはジュリオ・ジェノイーノなど諸説あるが、その歌詞を歌う音楽は哀感に満ちている。

同じく第3曲の〈優雅な月よ〉は、1827～28年にかけて作曲された。分散和音の上に歌われるカンタービレな美しい曲で、いかにもベッリーニらしいセンチメントに溢れている。

《6つのアリエッタ》は1828～29年にかけて作曲され、1829年にミラノのリコルディ社から出版された歌曲集。〈マリンコニア〉はその第1曲で、イタリアの詩人、イッポリート・ピンデモンテの詩による。ニフを賛美する詩が分散和音の上に大きく飛躍しながら情熱的に歌われるが、前半は短調でもの思わしげに、後半は長調に転じて激情的に歌われる。

〈喜ばせてあげて〉は同じく《6つのアリエッタ》の第6曲。オペラの台本作家として知られるピエトロ・メタスタージオ作の『イペルメストラ』の中の詩による。ベッリーニの華麗な装飾が活かされた美しい曲。

〈あなたの声に心が開く〉は歌劇《サムソンとデリラ》の中、最も美しいアリアである。この場面ではついに勇士の心を掴んだデリラがサムソンに呼びかける。16分音符の細かなリズムがまるでデリラからサムソンへの愛のさざ波のように、涼やかな中にも官能的に、和音を刻んでいく。A-B-A-Bの形式で、サムソンからデリラへの情熱的な愛の告白となっている。



Profile

中国の西安市生まれ。高校で音楽を学び始めた。2009年に咸陽師範大学音楽教育科卒業。現在、田大成氏に師事。

11. 鈴木 彩生 (ソプラノ)

Pf. 林 菜月

14:40

▼ R.シュトラウス / 歌曲集《「最後の葉」による8つの歌曲》作品10より
Richard Strauss (1864-1949) // 8 Gedichte aus Letzte Blätter op.10
▼ 第8曲 万霊節 Allerseelen

▼ R.シュトラウス / 歌曲集《素朴な歌》作品21より
Richard Strauss // Schlichte Weisen op.21
▼ 第2曲 あなたは私の心の冠 Du meines Herzens Krönelein

▼ R.シュトラウス / 歌曲集《4つの歌曲》作品36より
Richard Strauss // Vier Lieder op.36
▼ 第1曲 ばらの絆 Das Rosenband

▼ R.シュトラウス / 歌曲集《6つの歌曲》作品17より
Richard Strauss // Sechs Lieder op.17
▼ 第2曲 セレナーデ Ständchen

▼ V.ベッリーニ / 歌劇《清教徒》より
Vincenzo Bellini (1801-35) // I Puritani
▼ あなたの優しい声が Qui la voce sua soave

【解説】

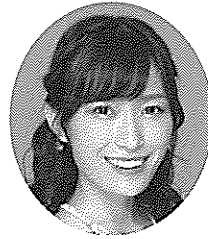
〈万霊節〉は、ヘルマン・ヴォン・ギルムの詩によるもので、シュトラウスにとって最初の歌曲集に収められている。年に一度死者を想うカトリックの祭日に、亡き恋人への想いを清らかに、そして異名同音的転調を用い情熱的に語っている。

〈あなたは私の心の冠〉は、法学者・史学者で詩人でもあるフェリックス・ダーンの詩による。美しいレガートのメロディで恋人を賛美し、それと対照的に他の女性たちを描写するときの音楽は騒々しい。モーツァルトのような簡潔で古典的なスタイルに、シュトラウス特有の転調が近代的な色彩を加えている。

〈ばらの絆〉は、グロップシュトックの詩による。同じ詩によるシューベルトの作品も非常に有名だが、シューベルトのものが2節で書かれているのに対し、シュトラウスの作品は通作歌曲で、さらにロココ的な装飾性で全くと言ってよいほど異質な世界を展開する。濃密な恋の一場面がロマン的に描かれている。

〈セレナーデ〉は、シュトラウスがイタリアへ旅をした年の1886年にアドルフ・シャックの詩により書かれた。詩は恋人に呼びかける典型的なセレナーデで、南欧的に明るく、またそれまでの彼の歌曲にみられなかった官能の喜びが歌われている。

〈あなたの優しい声が〉は、《清教徒》第2幕でエルヴィラによって歌われるアリア。イングランド清教徒革命の中、エルヴィラ(議会派の娘)とアルトゥーロ(王党派)は互いに愛し合い婚約関係にあるが、アルトゥーロが王妃を救うため逃亡したことで自体が一変する。アルトゥーロは議会から死刑宣告を受け、エルヴィラはアルトゥーロに捨てられたと勘違いし狂乱。そして、幸せだった彼との日々を回想する。



Profile

千葉県出身。桐朋女子高等学校、洗足学園音楽大学声楽コース卒業。声楽を故 永田 峰雄、鍛冶 まりあ、馬場 由香の各氏に師事。

12. CHEN YINGJIE (テノール)

Pf. ZHANG FAN

F.P.トスティ / 苦しみ
Francesco Paolo Tosti (1846-1916) // Tormento

F.P.トスティ / 最後の歌
Francesco Paolo Tosti // L'ultima canzone

F.P.トスティ / 夢
Francesco Paolo Tosti // Sogno

É.ラロ / 歌劇《イスの王様》より
Édouard Lalo (1813-1901) // Le Roi d'Ys
▼ 愛しい人よ、虚しくも Vainement, ma bien-aimée

F.P.トスティ / 魅惑
Francesco Paolo Tosti // Malia

【解説】

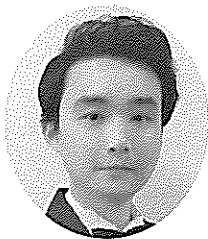
《苦しみ》はイタリア人の作曲家トスティの作品。単純な和音の連続の中に、素晴らしい情熱が展開され、それは間奏のピアノのメロディーで頂点に達する。こうした伴奏の形では、歌は相当自由に歌えるので、曲想を大きく掴んで、パッションートな表現を考えたい。これはトスティ指折りの名曲のうちに入るだろう。

《最後の歌》は同じくトスティの作品で、「甲斐なきセレナーデ」の一種である。「自分の思っていたニーナは、明日お嫁にいらしてしまう。もう一度私のセレナーデを聞いておくれ」と歌うこのメロディーは、いかにも南欧の情緒に溢れている。

《夢》はトスティ歌曲の中で、最も優れたものの一つに数えられる。シューマンの《詩人の恋》の中の〈夜ごと、夢に〉のような情感を持ち、メロディーと和音の微妙な結びつきが実に美しい。

《愛しい人よ、虚しくも》はラロの歌劇《イスの王様》よりミリオのアリア。この作品はブルターニュ地方の伝説に着想を得ており、伝承と民謡を豊かな優雅さと魅惑と色彩とをもって活用している。第3幕第1場、婚礼の儀式の場面、新郎ミリオが新婦ローゼンの部屋の前で彼女への熱愛を歌うアリア。ラロの音楽の華麗さと色彩が伝わってくる。

《魅惑》もトスティの名曲の一つ。熱烈な恋の告白である。題名の“Malia”は恋人の“Malia”とかけてあるのかもしれない。旋律線の上行によって、情熱を表すようにできているので、頂点で幅広い声の使い方を工夫したい。



Profile

中国の広東省生まれ。東莞理工学院城市学院卒業。2015年「香港国際音楽節」銀賞。2019年に来日。現在、田大成氏に師事。

13.長島 彩 (ソプラノ)

Pf. 皆川 純一

P.チマーラ / ストルネッコ
Pietro Cimara (1887-1967) // Stornello

P.チマーラ / マリーンの鐘
Pietro Cimara // Le campane di Malines

P.チマーラ / 雪が降る
Pietro Cimara // Fiocca la neve

P.チマーラ / 歌曲集《カレンディマッジョの3つのパッラータ》より
Pietro Cimara // 3 Ballate di Calendimaggio
第2曲 どうか愛の神が来てくれるよう Ben venga amore

V.ベッリーニ / 歌劇《清教徒》より
Vincenzo Bellini (1801-35) // I Puritani
あなたの優しい声が Qui la voce sua soave

【解説】

フラテリが作詩した《ストルネッコ》は、冒頭のピアノ前奏が夢見心地で幻想的な旋律から始まる。イタリア中央西部のフィレンツェを中心としたトスカーナ地方に咲く花を詠む民謡形式をとった素朴かつ熱烈な愛の歌である。

《マリーンの鐘》のマリーンはベルギー国アントワープ近郊の地名。元は英語の詩で、ペーシがイタリア語に訳したものである。メロディーは繊細かつドラマティックな印象を感じさせ、鐘の音を模したピアノ伴奏が特徴。過ぎ去った恋をしみじみと偲んでいる。

イタリアの詩人・古典文学者のパスコリが作詩した《雪が降る》は、子供をあやす老女の子守歌のように感じられる曲である。雪が降っている様子を表現した音楽から始まり、転調と共に温かみを感じ変化するとともに詩情あふれる曲である。

《どうか愛の神が来てくれるよう》は《カレンディマッジョの3つのパッラータ》より第2曲目。カレンディマッジョは5月1日、フィレンツェで行われる春を祝う祭りの事。ペーシ作詩のこの曲は、豊かに響く和音の前奏から愛を語りだすかのように歌い始める。古代ギリシャ人にとって不死を意味するヒイラギや愛の象徴であるバラが登場し、愛しい人を愛の神と称え、深く豊かな喜びを感じさせる曲である。

《清教徒》は1835年にベッリーニが最後に作曲した作品で、高貴さにあふれたベル・カントオペラの傑作である。《あなたの優しい声が》は恋人のアルトゥーロに裏切られたと思い、錯乱状態に陥ったエルヴィラが彼との楽しい日々を追憶し、もし私の元に戻って来ないなら死にたいと嘆く、狂乱の場で歌われるアリアである。



Profile

東京都出身。日本音楽高等学校出身。洗足学園音楽大学声楽コースを首席で卒業。第17回洗足学園ジュニア音楽コンクール 声楽部門 優秀賞受賞。平成29,30,31年度特別選抜生。学友会コーレファンタジアの一員として、単独コンサートや様々なアーティストとのコラボ演奏会に出演。多摩美術大学とのコラボレーションオペラでは《魔笛》ダーマ1役、《コジファン・トゥッテ》フィオルディリージ役で出演。洗足学園音楽大学オペラ公演《ヘンゼルとグレーテル》魔女役として出演。読売新聞社主催第90回新人演奏会に出演。前田奨学金、明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学金を取得。声楽を山田 真希、神谷 明美の各氏に師事。

14.村田 涼 (ソプラノ)

Pf. 漆間 夏希

声楽 15:50
▼
▼
▼
W.A.モーツァルト / クローエに K.524
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // An Chloe K.524

W.A.モーツァルト / モテト《踊れ、喜べ、幸いな魂よ》へ長調 K.165
Wolfgang Amadeus Mozart // Exsultate, jubilate K.165
第1楽章 Exsultate, jubilate (踊れ、喜べ、幸いな魂よ)
レチタティーヴォ Recitativo
第2楽章 Tu virginum corona (純潔の王冠たる汝よ)
第3楽章 Alleluja (アレルヤ)

【解説】

《クローエに》は、1787年にヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトによって作曲された。作詞はヤコービ。「お前の青い大きな眼をのぞくと、私の心はときめき、燃える。私の酔眼を雲がおおっても、お前のかたわらに座るだけで幸せだ」と、激しい恋情を歌う。明らかにロンド形式の形態をとっており、2分の2拍子の旋律も器楽的要素を備えている。

モテト《踊れ、喜べ、幸いな魂よ》は、モーツァルトが最後にイタリアのミラノを訪れた際に作曲し、1773年1月17日、テアチン教会にてカストラート歌手ヴェナンツィオ・ラウツィーニの独唱により初演された。ラテン語のテキストにより神への讃美を歌っているが、その内容は教会音楽というよりも声楽のためのコンチェルトという印象が強い。各楽章の形式は、第1楽章、第2楽章がソナタ形式、第3楽章がロンド形式となっており、ソプラノ独唱とオルガン、管弦楽によるシンフォニア風の構成を持つ、3楽章のカンタータ形式で書かれている。第1楽章は、「踊れ、喜べ、幸いな魂よ。天も応えてともに歌う」と歌い、華やかなコロラトゥーラが印象的である。この後、「雲も嵐も暗き夜も去って、陽は輝き暁が訪れた。恐れず起きよ、喜ばしき者よ」というレチタティーヴォが入る。第2楽章は、歌謡的な旋律で「純潔の王冠たる汝よ、われらに平安と望みを与えよ」と歌う。第3楽章は、独立して取り上げられることもしばしばで、「アレルヤ」と明るく喜ばしい曲調で軽やかに歌う。



Profile

鹿児島県出身。大分県立芸術文化短期大学音楽科声楽コース首席卒業。同専攻科修了。在学中、演技試験成績優秀者による演奏会に多数出演。第71回、第73回全日本学生音楽コンクール北九州大会 声楽部門大学の部入選。オペラ《魔弾の射手》に介添えの少女役で出演。これまでに声楽を、原口 匡、宮本 修、愛甲 久美、増田 のり子の各氏に師事。

15. YOU PAN (テノール)

Pf. HE XUAN

F.P.トスティ / 理想の女
Francesco Paolo Tosti (1846-1916) // Ideale

G.ドニゼッティ / 歌劇《愛の妙薬》より
Gaetano Donizetti (1797-1848) // L'elisir d'amore
人知れぬ涙 Una furtiva lagrima

F.P.トスティ / 君なんかもう
Francesco Paolo Tosti // Non t'amo più

J.マスネ / 歌劇《マノン》より
Jules Massenet (1842-1912) // Manon
目を閉じると見える En fermant les yeux

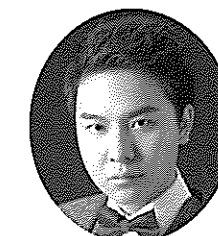
【解説】

トスティ歌曲の中で、《理想の女》は戦前から最も知られた名曲である。甘美な恋の思いが、侘しい一人ぼっちの部屋に溢れる時、去っていた理想の人に「帰って来ておくれ」と叫ばずにはいられない。この心の高まりを情熱的に歌う。

ドニゼッティの歌劇《愛の妙薬》は、スペインのバスク地方が舞台。インチキ薬売りのドゥルカマーラから「愛の妙薬」を手に入れ、憧れのアディーナの気を惹こうと努力する若い純情な農夫ネモリーノの話。アリア《人知れぬ涙》は第2幕第2場村の広場での出来事。ネモリーノが愛の妙薬を買う金を手に入れるために軍隊に入ることになったと、ドゥルカマーラから聞いたアディーナは、そのひたむきさに感激して涙を流す。この様子を物陰からそっと見つめながらネモリーノは、彼女の心を射止めたとばかりに歌う。

《君なんかもう》はトスティが1884年にロンドンで作曲。淡々と始まる歌い出しから、次第に情熱を高まらせ、長調になって別れの決意が歌われる。短調での過去の想い出と、長調の現在の対比を見事に歌の中に出したい。よく長調になってテンポを速める人がいるが、これは反対で、むしろじっくり歌って行くべきだと考える。

《目を閉じると見える》はマスネの歌劇《マノン》第2幕で、マノンの兄レスコーと貴族ブレティニーが入ってきて、今夜デ・グリュエが連れ去られるはずであるから、今後はブレティニーと何ん自由のない生活をするようにとマノンにいい聞かせる。マノンはデ・グリュエへの愛を感じながらも享楽への憧れにひかれ、承知する。そこへ事情を知らないデ・グリュエが帰って、マノンの目に涙を見て、この詠唱によって慰める。



Profile

中国山西省出身。山西大学音楽学院音楽部声楽コース卒業。2016年山西省第六回麒麟コンクール大学声楽組一等賞。2017年張 籍 剛監督の舞台ミュージカル《為有犧牲多壯志——右玉と彼の郡党書記》に参加。これまで声楽を遠 惠娟、田 大成の各氏に師事。

16. 脇屋敷 美里 (ソプラノ)

Pf. 小林 千夏

木下 牧子 (b.1965) / 歌曲集《愛する歌》より
第3曲 海と涙と私と
第7曲 ユレル

G. ロッシーニ / もしも粉屋の娘がそれを望めば
Gioachino Rossini (1792-1868) // Se il vuol la molinara

G. ロッシーニ / 歌劇《ブルスキーノ氏》より
Gioachino Rossini // Il signor Bruschino
私に花婿を教えてくださいな Ah donate il caro sposo

【解説】

木下牧子作曲の《愛する歌》は、やなせたかし作詞によって作曲された曲集である。この曲集は、全10曲からなる二部合唱曲集だった。第3曲《海と涙と私と》は悲しいけれど、どこかほっとしているような、しみじみと情感を表現する曲。長調と短調が揺れ動く所は声の音色を変えて丁寧に表現しようと思う。第7曲《ユレル》は「揺れる」という言葉を片仮名で書いたら日本語というより外国語みたいで面白い...と言うやなせ氏による遊び心が詰まった曲である。

《もしも粉屋の娘がそれを望めば》はジョアキーノ・ロッシーニが1801年に作曲したとされる歌曲。細かいリズム部分と伸びやかな旋律が魅力的な伴奏に乗せて歌われる。

1813年にジョアキーノ・ロッシーニによって作曲された《ブルスキーノ氏》は全1幕のオペラ・ファルサであり、これはオペラ・ブッフア(喜劇)と区別される。《私に花婿を教えてくださいな》はソフィアの aria。ガウデンツィオが後見しているソフィアは、フロルヴィッレと恋仲だが、両家は昔敵同士だった。二人の仲を知らないガウデンツィオは、彼女を結婚させる為花婿を呼ぶ。ところが、まだ誰も花婿と面識のない事を利用して、フロルヴィッレは自分がその花婿ブルスキーノ2世であると名乗ってしまう。カヴァティーナ〜カバレッタの形式によって歌われるコケットな aria。

17. 渡辺 華子 (ソプラノ)

Pf. 高田 絢子

O. レスピーギ / 歌曲集《4つのトスカーナのリスペット》より
Ottorino Respighi (1879-1936) // Quattro rispetti toscani
第1曲 あなたが生まれたとき... Quando nasceste voi...

O. レスピーギ / 最後の陶酔
Ottorino Respighi // L'ultima ebbrezza

O. レスピーギ / 霧
Ottorino Respighi // Nebbie

G. ドニゼッティ / 歌劇《ルクレツィア・ボルジア》より
Gaetano Donizetti (1797-1848) // Lucrezia Borgia
安らかに眠っている... 何と美しい! Tranquillo ei posa... Com'è bello!

C. グノー / 歌劇《ロメオとジュリエット》より
Charles Gounod (1818-93) // Roméo et Juliette
私は夢に生きたい Je veux vivre dans ce rêve

【解説】

《あなたが生まれたとき...》は、O. レスピーギにより作曲された作品である。トスカーナ地方の民謡を題材とした4曲から成るリスペットの第1曲で、アルーガ・ビルガの子供への愛情溢れる詩に、各登場人物を象徴する音楽が付けられている。

《最後の陶酔》はレスピーギ最初期の作品で、女性詩人アダ・ネグリの詩が用いられている。二度と会うことの叶わない相手への切なく力強い想いが歌われる。"Ultimo(最後の)"という言葉が全体に散りばめられることにより、不可能と知りながらも相手の姿を求める悲痛な想いが連想される。同じくネグリの詩による《霧》は、後付けとして詩が当てはめられた。嬰ト短調の和音から成る伴奏の響きが、悲痛な状況をより際立たせており、作曲家自身の苦悩が反映されている。

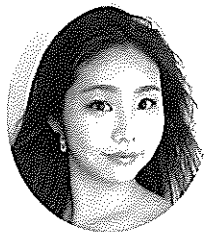
《ルクレツィア・ボルジア》はV. ユゴーの戯曲"Lucrece Borgia"を原作とした、実在したボルジア家出身の公妃の物語である。1833年にG. ドニゼッティにより作曲され、メロドラマ的な悲劇に対する、彼の関心の高さが反映された作品と言われている。《安らかに眠っている...何と美しい!》は、ルクレツィアがヴェネツィアで偶然出会った若者"ジェンナーロ"の美しい寝姿を、深い愛情を持って褒め称える aria である。

シェイクスピアの戯曲を原作とした《ロメオとジュリエット》は、C. グノーが作曲した9作目のオペラ作品。《私は夢に生きたい》は、親が決めた婚約者との結婚話に対し、もっと青春を謳歌したい!とジュリエットが第1幕で純粋に夢見る気持ちを歌う aria で、装飾唱法を駆使したワルツによって、彼女の胸の高鳴りが表現されている。



Profile

埼玉県出身。洗足学園音楽大学音楽コース卒業。世田谷ジュニア合唱団に所属。日生劇場《夕鶴》、新国立劇場《道化師》等に児童合唱として出演。また教育出版やベネッセ教材のレコーディングに参加。洗足学園音楽大学コールファンタジアに所属し、BS-TBS「日本名曲アルバム」等に出演。声楽を三浦 緑、牧野 正人の各氏に師事。



Profile

東京都出身。雙葉高等学校、洗足学園音楽大学音楽コース卒業。平成30年度洗足学園音楽大学オペラ公演《ヘンゼルとグレーテル》睡りの精役として出演。洗足学園音楽大学コールファンタジアに所属し、BS-TBS「日本名曲アルバム」等に出演。声楽を寺島 夕紗子、藤井 麻美、森谷 真理の各氏に師事。



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。

